

# 南相馬市博物館年報

令和 2 年度

令和 3 年12月

南相馬市博物館



## 発刊にあたって

南相馬市博物館は、平成7年8月、歴史・民俗部門と自然部門に加え、相馬野馬追の資料を収集展示する特色ある「野馬追の里歴史民俗資料館」として開館し、翌平成8年には博物館法にもとづく登録博物館となりました。

平成10年4月には「野馬追の里原町市立博物館」へと名称を変更、さらに平成18年1月1日、小高町・鹿島町・原町市の旧3市町が合併し南相馬市が誕生したことに伴い「南相馬市博物館」と名称を改めました。

当館は、相馬野馬追祭場地東側の本陣山に隣接し、福島県が設置する広域公園「東ヶ丘公園」の「歴史と伝承ゾーン」に位置づけられた、緑豊かな自然林の中に立地しています。

開館以来、「地域の歴史文化について理解を深め、文化の伝承と保存に努める」ことを目的に、常設展示のほか、企画展示、特別展示やさまざまな講座、講演、体験学習などの開催に加え図録や研究紀要の刊行など、博物館事業の充実に努めてまいりました。

平成23年3月に発生した東日本大震災、特に東京電力㈱福島第一原子力発電所事故の影響により一時閉館しましたが、同年8月には、事業規模を縮小しながらも再開を果たしました。しかし、令和2年度には、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨時休館をするなど、その対策を講じながら運営しています。

本刊は、令和2年度の当館の運営状況や活動をまとめたものです。資料収集・調査研究・教育普及のほか、市民や他団体との連携の実績も掲載しました。

当館は今後とも、地域文化の継承のため、資料の調査研究、収集保存につとめ、その成果を生かし、ふるさと教育の充実など、市民文化の向上に推進してまいります。

これまで、ご支援、ご指導、ご協力賜りました方がたに深甚なる謝意を表しますとともに、今後とも当館の充実・発展のためにご支援を賜りますようお願いいたします。

令和3年12月

南相馬市博物館

館長 堀 耕 平

## 目 次

### 発刊にあたって

I 南相馬市博物館の沿革	1
II 施設・設備の概要、機能	5
III 常設展示事業	6
IV 令和2年度事業実施概要	8
1. 企画展示事業	8
2. その他の展示事業	14
3. 資料収集管理事業	17
4. 調査・研究事業	18
5. 教育普及事業	20
6. その他の事業	24
7. 情報発信	25
V 管理運営	29
1. 組織・職員	29
2. 各委員会等	29
3. 予 算	31
4. 入館者統計等	32
VI 資 料 条例、規則、設置要綱、規約	34
1. 南相馬市立博物館条例	34
2. 南相馬市立博物館規則	35
3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱	38
4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱	38
5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則	39
6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱	39
7. 南相馬市博物館博学連携推進員会設置要綱	40

## I 南相馬市博物館の沿革

- 平成2年6月 建設基本構想検討委員会・起草委員会・庁内検討委員会を設置
- 3年3月 第1回建設基本構想検討委員会を開催
- 4年1月 資料館建設庁内プロジェクトチーム設置
- 4月 資料館収集展示委員会設置
- 10月 資料館基本設計実施設計検討委員会設置
- 11月 資料館展示工事・建築工事基本設計業務委託
- 5年5月 資料館建築工事・展示工事実施設計業務委託
- 6年2月 建築工事現場工事着工
- 7年3月 建築完成引渡
- 8月 「野馬追の里歴史民俗資料館」開館
- 8月 開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」  
第1期「野馬追の歴史」展・第2期「馬の装い 鞍と鐙」展開催
- 8年4月 開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」  
第3期「中ノ郷騎馬武者の甲冑」展・第4期「もののぐの優美」展開催
- 5月 博物館法に定める博物館に登録
- 8月 第3回企画展「縄文土器は語る―発掘された太古のくらし」開催
- 12月 第4回企画展「神々をまねくお神楽たち―獅子神楽の世界」開催
- 9年4月 第5回企画展「交通にみる近代化―海岸線の開通」開催
- 7月 第6回企画展「造形の美―当世具足の世界」開催
- 10月 第7回企画展「相馬中村藩の御仕法」開催
- 10年4月 「野馬追の里原町市立博物館」に名称変更
- 4月 第8回企画展「海の住人クジラ―浜通りのクジラ化石」開催
- 6月 入館者5万人達成
- 7月 第9回企画展「武家の繁栄―祈りのしるし」開催
- 10月 第10回企画展「絵図からみた原町の周辺―江戸時代の地域観」開催
- 11年4月 第11回企画展「相馬のやきもの―収蔵資料を中心として」開催
- 7月 第12回企画展「近世大名家の名品展―奥州板倉家を中心として」開催
- 12年1月 第13回企画展「古代の瓦と今の瓦―泉廃寺跡を中心として」開催
- 4月 福島県立美術館移動展「近代日本美術と相双の美術家たち」開催
- 7月 第14回企画展「鐙―その歴史と美」開催
- 10月 第15回企画展「絵馬 祈りと願い―相双地方を中心として」開催
- 13年4月 第16回企画展「相馬の鋳物師―かなものの歴史と技術―」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 夏休み特別企画「原町の鳥たち」開催
- 14年1月 第17回企画展「篆刻の世界―林泉汀作品を中心として―」開催
- 4月 福島県文化財センター白河館巡回展「新編陸奥国風土記―巻之一 白河郡」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 入館者10万人達成
- 8月 夏休み特別企画「原始・古代のくらしと道具」開催

## I 南相馬市博物館の沿革

- 平成14年10月 第18回企画展「米づくりーむかしの暮らしの中で」開催
- 15年1月 第19回企画展「中村藩の炮術ー関流炮術を中心としてー」開催
- 4月 特別展「相馬地方の恐竜時代」開催
- 6月 第20回企画展「大名具足と相馬の武具」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 夏休み特別企画「よみ・かき・そろばん①ー江戸時代の風景ー」開催
- 10月 第21回企画展「相馬地方の妙見信仰ー千葉氏から相馬氏へー」開催
- 16年1月 発掘調査成果展「埋もれていた古のくらしーはらまちの遺跡Ⅰー」開催
- 2月 市制50周年記念展「写真で見る原町市の50年」
- 4月 福島県立博物館移動展「博物館から歴史を学ぶ」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 夏休み特別企画「昔の道具とくらし」開催
- 10月 第22回企画展「原町の動物 けもの・カエル・ヘビの仲間」開催
- 17年1月 第23回企画展「戦国時代の相馬」開催
- 4月 開館10周年記念特別展「原町市の文化財」開催
- 6月 「野馬追」展開催
- 7月 夏休み特別企画「はらまちの川と自然」
- 9月 第24回企画展「発掘された日本列島2005」開催
- 18年1月 3市町合併に伴い、博物館の名称を「南相馬市博物館」に変更
- 1月 第25回企画展「自然の恵みと祭りー海と川ー」開催
- 4月 特別展「南相馬市の生き物ーふるさとの動物と植物ー」開催  
入館者15万人達成
- 7月 第26回企画展「野馬追たんけん隊」開催
- 9月 第27回企画展「相馬の画人 堀池雲岳をめぐる世界」開催
- 19年1月 特別展「描かれた相馬野馬追」開催
- 4月 特別展「みんな集まれ！お宝だどおー最近の博物館収蔵資料からー」開催
- 7月 野馬追資料特別陳列
- 8月 特別展「はくぶつかんで見たよ！ー教科書につなぐ博物館資料ー」開催
- 8月 「報徳記原稿」特別公開
- 9月 第28回企画展「将門伝説ー相馬と周辺地域ー」開催
- 11月 杉並区立郷土博物館共催展「相馬野馬追ー受け継がれる武家の伝統ー」開催  
(於：杉並区立郷土博物館分館)
- 20年1月 第29回企画展「先人の足跡ー竹島國基が歩いた遺跡ー」開催
- 4月 特別展「南相馬市の武家文化ー指定文化財からー」開催
- 5月 杉並区立郷土博物館共催展「杉並文学館ー井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士ー」開催
- 7月 野馬追資料特別陳列
- 8月 特別展「朝日座の軌跡 地方の映画館が遺したもの」開催
- 10月 第30回企画展「田んぼのいきもの・たからものー人とともに歩んできた自然ー」開催
- 21年1月 第31回企画展「相馬の武士 町に住む武士・村に住む武士」開催
- 4月 特別展「アンモナイト・ワールドー相馬地方のアンモナイトとその仲間たちー」開催
- 7月 野馬追資料特別陳列

- 平成21年 8月 「福島県歴史資料館収蔵資料からみた 南相馬のちょっと昔」 展開催
- 10月 第32回企画展「相馬の馬」 開催
- 10月 入館者20万人達成
- 22年 1月 第33回企画展「相馬駒焼」 開催
- 4月 特別展「真野川のしぜんーなにがいの？ しょくぶつ・どうぶつー」 開催
- 6月 野馬追資料特別陳列
- 8月 第34回企画展「台所からキッチンへー道具に見る便利さのゆくえー」 開催
- 10月 特別展「鹿島区の寺院展ー指定文化財を中心にー」 開催
- 23年 1月 企画展「古代陸奥の国 行方の郡家ー国史跡 泉官衛遺跡ー」 開催
- 3月11日 東日本大震災発生
- 3月12日 休館になる。東京電力(株)福島第一原子力発電所事故発生
- 8月5～7日 除染実施
- 8月9日 一部業務再開
- 24年 1月 特別展「ふるさと再発見 私たちのたからもの」 開催
- 4月 特別展「阿武隈高地の生き物たちー未来に向かって、生きるー」 開催
- 6月 特別展「相馬のたから 相馬野馬追」 開催
- 9月 福島県立美術館移動美術展「ふるさとの記憶 安らぎの美術」 開催
- 10月 福島県立博物館移動展「ジュラシック相馬 化石が語る恐竜時代の相馬地域」 開催
- 25年 1月 特別展「ふるさと小高」 開催
- 4月 特別展「福島に生きるー福島県の野生生物とナチュラリストたちー」 開催
- 7月 特別展「野馬追の今と昔」 開催
- 9月 特別展「鹿島のたからもの 南相馬市のなかで」 開催
- 26年 1月 特別展「原町無線塔ー世界をつないだ白亜の巨塔」 開催
- 12月 映像「相馬野馬追ー真夏を疾走する伝統行事ー」（平成25年制作）が地域文化アーカイブスグランプリ受賞
- 4月 特別展「被災地の原野に生きるー南相馬市の生き物と人・暮らしー」 開催
- 6月 復興浜団共催「こころの金魚 深堀隆介展 in 福島」 開催
- 特別展「野馬追のビジュアルいまむかし」 開催
- 8月 国立科学博物館共催「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム 南相馬にアロサウルスがきたぞ！」 開催
- 27年 1月 特別展「博物館収蔵資料」 開催
- 4月 特別展「ふくしまに生きる爬虫・両性類ー身近な生き物から未来の南相馬・福島を考えるー」 開催
- 6月 特別展「相馬の物具文化」 開催
- 8月 武者絵展実行委員会共催「大武者絵展」 開催
- 9月 特別展「戦後70年記念 原町飛行場と戦争」 開催
- 10月 入館者25万人達成
- 特別展「S A C R I F I C Eー眠る地層にささげる花」 開催
- 28年 1月 福島県立博物館移動展「被災地からの考古学1ー福島県浜通り地方の原始・古代ーin 南相馬」 開催
- 4月 特別展「文化財に見る市制10年の歩み 震災からの心の復興」 開催

## I 南相馬市博物館の沿革

- 平成28年 7月 特別展「野馬追屏風の世界」開催
- 9月 特別展「報徳仕法と浄土真宗門徒移民 奥州中村藩の復興への取り組み」開催
- 29年 1月 特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々」開催
- 4月 特別展「博物館収蔵資料展2017」開催
- 7月 特別展「武士の備え」開催
- 9月 特別展「被災地の海を生きるーわたしたちの海 未来につなげる蒼い海ー」開催
- 11月 特別展「東北押し葉標本」開催
- 30年 1月 特別展「日本の凧ー大橋コレクションー」開催
- 4月 特別展「南相馬の樹」開催
- 6月 特別展「伊達成実 南相馬に来たるー北の大地に共存する相馬と伊達ー」開催
- 9月 特別展「描かれた相馬野馬追2018」開催
- 31年 1月 特別展「相双の化石大集合！」開催
- 4月 企画展「双葉地方の昆虫」開催
- 令和元年 5月 1日 「平成」から「令和」に改元
- 6月 企画展「武士の装いーとりどりのかたち」開催
- 9月 企画展「奥相三十三所観音札所巡り」開催
- 11月 国立科学博物館巡回展「日本の生物多様性とその保全」開催
- 令和2年 4～6月 新型コロナウイルス感染症拡大の影響および空調設備工事のため、臨時休館
- 5月 博物館公式SNS（Facebook、Twitter、YouTube）の運用開始
- 7月 「相馬野馬追収蔵資料」展開催
- 10月 企画展「冥界へようこそー仏画・幽霊画などからみた死生観ー」開催
- 令和3年 3月 企画展「南相馬の震災10年」開催
- 市内における新型コロナウイルス感染拡大、市内施設の感染対策確認のため2日間臨時休館



## Ⅱ 施設・設備の概要、機能

### 1. 建物の概要

建築面積／2,288.6㎡

構 造／鉄筋コンクリート平屋建て（一部地下一階）

敷地面積／4,729.08㎡（県広域公園内）

### 2. 施設概要

管理部門／事務室 体験学習室 補修工作室 写真室 燻蒸室 視聴覚室  
エントランスホール

展示部門／常設展示室 特別展示室 展示ホール

収蔵部門／収蔵庫 特別収蔵庫

機械設備／高圧受電設備 空気調和設備 消防設備 防犯設備

部門別床面積／管理・機械部門 1,051.6㎡

展 示 部 門 754.0㎡

収 蔵 部 門 483.0㎡

駐 車 場／博物館駐車場 15台

公園南側駐車場（公園施設）74台

公園北側駐車場（公園施設）81台

### 3. 施設機能

常設展示室／野馬追部門 自然部門 考古部門 歴史部門 民俗部門

特別展示室／年4回程度開催 定期企画展

シアター／映像による資料案内および学習（150インチ スクリーン対応映像設備）

収容人員83人（うち車椅子席3席）

体験学習室／収容人員43人 講演会・講座・講習会

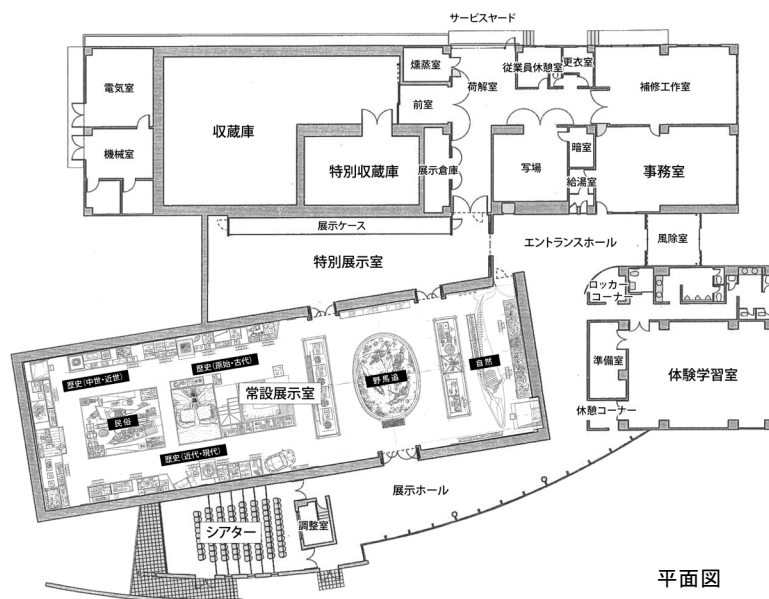
収 蔵 庫／積層棚 225㎡

特別収蔵庫／積層棚・箆筒 70㎡

補修工作室／資料復元補修および研究施設 84㎡

燻 蒸 室／展示・収蔵資料の燻蒸施設 12㎡

写 場／収蔵資料の写真撮影施設 42㎡



平面図

## Ⅲ 常設展示事業

### 1. 展示の概要

常設展示室と特別展示室を中心にシアター、展示ホール、エントランスホールによって構成している。国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」をはじめ、この地方に関する自然や歴史、民俗についての資料を公開することによって、野馬追の里として特色のある歴史と文化を紹介している。

常設展示室は野馬追・自然・考古（原始・古代）・歴史（中近世・近現代）・民俗の各部門で構成し、それぞれの展示テーマをもとに実物資料やグラフィック資料、映像資料、複製資料などを複合的に組み合わせた展示をしている。

順路は野馬追部門、自然部門、歴史部門へと続く。歴史部門の中央には、羽山横穴の復元模型、実物の古代製鉄炉、近代・現代の文化人のコーナーがある。民俗部門は「馬と生きる」「新田川の恵み」の2つのテーマを設け展示している。

### 2. 展示資料の概要

#### 野馬追

神旗争奪戦ジオラマ 相馬野馬追諸道具（甲冑 相馬太田神社神輿 野馬追列帳 神旗 野馬懸諸道具など）  
相馬野馬追図屏風（複製） 野馬追絵巻（映像）

#### 自 然

化石（古生代～新生代） 小型肉食恐竜足跡化石 ヒゲクジラ類脊椎骨化石 岩石標本 南相馬市原町区の地形模型 動植物のジオラマ 動植物写真パネル 人の進化（猿人、原人、旧人、新人の頭蓋骨標本） 馬の進化（図） 南相馬市の自然（映像） 剥製（ウサギ・キジなど） 昆虫標本（ハッチョウトンボなど）

#### 歴史（原始・古代）

旧石器 浦尻貝塚出土品 縄文人の作業のようす（模型） 縄文時代の狩猟道具 縄文人の装飾品 弥生時代の農耕具 桜井遺跡出土品 古墳および横穴群地図 桜井古墳群出土品（底部穿孔二重口縁壺・銅鏡・鉄製直刀） 竪穴住居（高見町A遺跡1号住居跡の模型） 高見町遺跡出土の塩釜式土器 羽山横穴の実物大模型および出土品 泉官衙遺跡出土品 大六天遺跡出土品 蛭沢遺跡群出土品 広畑遺跡出土墨書土器 金沢地区製鉄遺跡群長瀬遺跡竪形炉（実物） 陸奥国官衙関連遺跡（図） 行方八社（図）

#### 歴史（中世・近世）

相馬氏の歴代系図 牛越城（模型） 中世行方地方の村（図） 県指定重要文化財木造十一面観音立像（模型） 板碑（模型） 中村藩領地目録 三百一本の槍 給人郷土関係文書 中村藩の武士制度（図） 原ノ町宿（模型） 商家の店頭風景（実物大模型） 天明の飢饉関係文書 報徳仕法関係文書 二宮尊徳坐像 富田高慶坐像（複製） 武山家住宅（模型）

#### 歴史（近代・現代）

原ノ町誕生までの町村の変遷図 戊辰戦争関係文書 官員文書（役職名簿） 明治初年行方郡行政区分（図） 日清・日露戦争関係図 関東大震災関係文書 手回し映写機 常磐線開通間もない頃の前ノ町駅構内（写真） 原町紡織機工場（写真） 原町紡織機関係文書 無線塔主塔（模型） 昭和初期の前ノ町駅のようす（模型および映像） 転車台（模型） C62機関車（模型） 原町飛行場関係写真 特別攻撃隊の写真および遺品 葉莢・銃弾 配給品購入台帳 戦時中の雑誌 農地解放関係図・写真 常磐線の電化完成（写真） 開業当時の丸三製紙機原町工場（写真） 無線塔解体（写真） 佐藤精明関係遺品 羽根田利夫関係文書および写真 羽根田利夫新彗星発見時の手作り望遠鏡 昭和41年製軽自動車（スバル360） 無線塔頭部（屋外展示） C50機関車（屋外展示）

#### 民 俗

農耕馬の模型および馬耕用具 かなぐつ屋の用具 フイゴ 蹄鉄 馬頭観世音石塔（模型） 絵馬 馬頭尊護摩供の護符 猿駒曳の護符 水産旧慣調（写真） 川舟 川漁関係写真および用具 鮭運搬用具 ヤナ場（模型） サケ雌雄（剥製） 明治・大正・昭和・平成時代の鮭漁（写真） 鮭料理（模型）



### 野馬追

相馬野馬追の勇壮な神旗争奪戦をジオラマで再現している。このほかに甲冑や野馬追の祭具、野馬追図屏風などを展示。野馬追の歴史と変遷を解説。



### 自然

自然との共存をテーマに、秋の山里の動植物を再現したジオラマ、原町区の地形模型、ヒゲクジラ類化石、ジュラ紀動植物化石の展示ほか、人や馬の進化を解説。



### 原始・古代

旧石器時代～平安時代まで、市内出土の資料を中心に展示。史跡浦尻貝塚・桜井古墳・羽山横穴・泉官衙遺跡など。近年の発掘調査の成果から、当時の人びとの生活や文化を解説。



### 中世・近世

中世の行方郡は、相馬氏の統治から始まる。相馬氏の統治、中世の信仰、原ノ町宿の復元模型、天明の飢饉と村おこし、奥州中村藩の政治、報徳仕法などの資料を解説。



### 近代・現代

戊辰戦争から現代までの、明治・大正・昭和の世相を示す資料とともに、無線塔や転車台、昔の原ノ町駅風景などの復元模型を展示。また、原町の文化人の紹介も行う。



### 民俗

人と馬、人と川との関わりを紹介する。馬を使った農耕具や絵馬などの馬に関する展示、鮭漁のやな場のようすや漁に使用された道具をとおり、人びとの暮らしを紹介。



## IV 令和2年度事業実施概要

## 1. 企画展示事業

## (1) 「冥界へようこそ—仏画・幽霊画などからみた死生観—」

[期 間] 令和2年10月1日～11月29日 52日間

[観覧者数] 1,412人（一般1,309人、高校生18人、小・中学生85人）

[内 容] 仏教では「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、人が亡くなると極楽浄土から阿弥陀仏が迎えにきてくれると考えてきた。しかし、生前に悪行を行った者は三途の川で十王に裁かれ、地獄で責苦を受けると考えた。地獄極楽図や十王像は盆や彼岸にお寺で公開・絵解きが行われ、仏教の地獄極楽思想は日本人の他界観や道德観に大きな影響を与えてきた。

一方、死者の霊が成仏できず、この世に現れるのが幽霊である。

江戸時代には講談・演劇などで幽霊話が人気となり、世間では夜中の怪談話が流行して多くの幽霊画が描かれた。

本展では、市内に伝わる仏画・幽霊画・民俗例などから伝統的な死生観や他界観を紹介した。

[担当学芸員] 二本松文雄

[関連事業]

- ・講 談「怪談 江島屋騒動—怨みの振袖—」

※コロナウイルス感染症拡大の影響により延期

日時：令和2年8月22日 13時30分～14時20分

講師：一龍齋貞山氏

- ・講 座「彼方の世界をどうみてきたか—私たちの世界観・来世観—」

日時：令和2年11月15日 13時30分～15時30分

講師：岩崎真幸氏

参加者数：16人

[展示資料]



企画展「冥界へようこそ—仏画・幽霊画などからみた死生観—」ポスター

No.	資 料 名	時 代	所有者	指定
1	観音堂石仏出土 赤焼土器・須恵器	平安 10世紀前半	南相馬市	国史跡
2	刺繍阿弥陀名号掛幅	鎌倉	阿弥陀寺	国重文
3	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	室町	阿弥陀寺	県重文
4	山越阿弥陀来迎図（小型複製）	江戸	日光寺	県重文
5	阿弥陀三尊来迎板木	室町	阿弥陀寺	県重文
6	五輪供養塔板木	江戸	阿弥陀寺	県重文
7	曳覆曼荼羅板木	室町	宝蔵寺	市
8	板碑 アンク（胎蔵界大日如来）（複製）	鎌倉 嘉元2年(1304)	当館	市
9	板碑 アンク（胎蔵界大日如来）（写真）	鎌倉 嘉元（14世紀）	当館	市
10	修羅道絵巻（写し）		個人	
11	十王像・奪衣婆像	江戸	淨圓寺	
12	十王像・奪衣婆像	江戸	泉観音堂	
13	六道絵 地獄		金性寺	
14	地獄極楽図		個人	

No.	資料名	時代	所有者	指定
15	幽霊図 彷徨	江戸	金性寺	
16	幽霊図 松鱗作		金性寺	
17	幽霊図 牡丹灯籠	明治末～昭和初期	金性寺	
18	幽霊図 花魁の幽霊	大正	金性寺	
19	幽霊図 月夜の柳に幽霊	明治末～昭和初期	金性寺	
20	幽霊図 柳下美人幽霊		金性寺	
21	幽霊図 思慕の念		金性寺	
22	幽霊図 子育て幽霊		金性寺	
23	幽霊図 骸骨と月図	江戸	金性寺	
24	鉄扇 幽霊と骸骨		金性寺	
25	幽霊図襦袢		金性寺	
26	浮世絵 相馬の古内裏（写し）	江戸	当館	
27	今野圓輔の著書（怪談ほか4冊）	昭和	福島県立図書館	
28	輿（揚げ輿）	昭和	当館	
29	葬送用具 龍頭	昭和	当館	
30	葬送用具 灯籠	昭和	当館	
31	ウレツキ塔婆（杉塔婆）複製	令和	当館	
32	百万遍念仏用具（数珠箱・数珠・鉦・撞木）	江戸 文化11年（1814）ほか	阿弥陀寺	
33	一忌組合帳簿 馬場	昭和	個人	
34	死葬資金會名簿・一忌当番帳 馬場 垣ノ内組・中内原一組	昭和8～24年	個人	
35	阿毘至（あびし）大地獄のうち鉄車（写し）	昭和	金性寺	

## （2）「南相馬の震災10年」

〔期 間〕 令和3年3月6日～5月5日 53日間

〔観覧者数〕 1,354人（一般1,214人、高校生15人、小・中学生125人）

〔内 容〕 平成23年3月11日、観測史上最大のマグニチュード9という東北地方太平洋沖地震、それにともなう大津波、その後起こった東京電力（株）福島第一原子力発電所事故、いわゆる「東日本大震災」は、当市に甚大な被害をもたらし、市民生活を一変させた。その後10年をかけて復興の道を進んできたものの、その爪痕は現在に至るまで深く残っている。

令和3年3月、東日本大震災からちょうど10年という節目を迎え、震災によって当市で何が起こり、人びとが何を考え、どのように復興の道を探ってきたのかをあたためて振り返り、今後の震災の伝承について考える機会を設けることを目的とした。

〔担当学芸員〕 二上 文彦

〔関連事業〕

- ・バスツアー「津波伝承地と震災慰霊碑」

日時：令和3年3月7日 9時～15時

講師：岩本由輝氏（東北学院大学名誉教授・伝承者）、荒一氏（伝承者）、二本松文雄主査

参加者数：10人



企画展「南相馬の震災10年」ポスター

#### Ⅳ 令和2年度事業実施概要

[展示資料]

##### イントロダクション

No.	資料名・作品タイトル	分類	場 所	年月日	作者・写真撮影者
1	おらほの碑	写真	鹿島区南柚木 八坂神社	平成24年4月20日撮影	当館
2	おらほの碑	フォトージュ	南相馬市・浪江町	平成24～27年	岡部昌生氏
3	小高区・牛舎の柱	写真	小高区大富	令和2年12月制作	片桐功敦氏

##### 未曾有の複合災害ー巨大地震・大津波・原発事故ー

No.	資料名・写真タイトル	分類	場 所	年月日	所蔵者・写真提供者
4	地震で倒壊した家屋	写真	小高区仲町	平成24年4月20日撮影	当館
5	大きく陥没した道路	写真	鹿島区永田	平成23年4月16日撮影	佐藤浩章氏
6	津波で破損した送電鉄塔	写真	原町区雫	平成23年4月23日撮影	大槻明生氏
7	「浦」に戻っていた干拓地	写真	小高区井田川	平成24年3月18日撮影	当館
8	スクリーニング（放射線量検査）	写真	原町区錦町 相双保健福祉事務所	平成23年4月16日撮影	佐藤浩章氏
9	高線量だった山間部	写真	原町区馬場 鉄山ダム近く	平成23年9月25日撮影	佐藤浩章氏

##### 1. 「天地ひっくりげえるぐれえの揺れでな、ほのあととはあ、海、こっちゃおっしょせて来で」ー地震・大津波ー

No.	資料名・写真タイトル	分類	場 所	年月日	所蔵者・写真提供者
▼松林とともにあったいとなみ すべて津波に奪われた					
10	かしまの一本松（クロマツ 部分）	標本	鹿島区南右田	平成29年12月27日採集	当館
11	かしまの一本松 樹皮の保護剤	実物	鹿島区南右田	平成29年12月27日採集	当館
12	かしまの一本松	写真	鹿島区南右田	平成25年11月29日撮影	大槻明生氏
▼多くを飲み込んだ津波					
13	瓦礫から見つかった 震災前の南右田地区の写真	実物	鹿島区南右田	平成23年3月11日被災	個人（元南右田地区居住者）
14	壊れた案内標識	実物	小高区村上	平成23年3月11日被災	福島県立博物館
15	折れ曲がった道路標識	実物	小高区塚原	平成23年3月11日被災	福島県立博物館
▼唯一津波被災した学校 真野小学校					
16	泥をかぶった真野小学校の備品 校旗と理科実験器具	実物	鹿島区小島田 真野小学校	平成23年3月11日被災	当館
17	卒業生に向けて残した黒板メッセージ	実物	鹿島区小島田 真野小学校	平成23年4月6日	当館

##### 2. 「原発爆発しちまって、みんなはてんでに逃げるしかねがったど」ー原発事故とその後の混乱ー

No.	資料名・写真タイトル	分類	場 所	年月日	所蔵者・写真提供者
▼長期化した避難生活					
18	避難所で食べたおにぎり	レプリカ	原町区石神 石神中学校避難所	平成23年3月12日	当館
19	震災当時のメモ日記	実物		平成23年3月11日～	個人（小高区）
20	石神第一小学校 避難所のようす	写真	原町区石神 石神第一小学校避難所	平成23年4月23日撮影	大槻明生氏
21	多くの掲示物が張られた避難所	写真	原町区石神 石神第一小学校避難所	平成23年4月23日撮影	大槻明生氏
22	避難所に寄せられたメッセージ 「どんなに辛くてもかならず あたらしい朝はやってくる」	実物	原町区石神 石神第一小学校避難所	平成23年4～10月頃	当館
23	住宅提供と就業支援のお知らせ （茨城県坂東市より）	実物	原町区石神 石神第一小学校避難所	平成23年4～10月頃	当館
24	避難所統合を知らせる掲示物	実物	原町区石神 石神第一小学校避難所	平成23年9月1日発給	当館

## 1. 企画展示事業

No.	資料名・作品タイトル	分類	場 所	年月日	作者・写真撮影者
▼南相馬への支援					
25	活動前のオリエンテーション (災害ボランティア)	写真	鹿島区西町	平成23年5月5日撮影	南相馬市社会福祉協議会
26	家屋床下の泥出し作業 (災害ボランティア)	写真	鹿島区	平成23年5月15日撮影	南相馬市社会福祉協議会
27	家屋の片付け・ゴミ搬出作業 (災害ボランティア)	写真	小高区	平成25年7月20日撮影	南相馬市社会福祉協議会
▼分断された南相馬					
28	立入禁止の看板	実物	場所不明 (警戒区域境界)	使用時期不明	市危機管理課
29	市民に配布された放射線量測定器 (富士電機製 DOSE e)	実物		平成24年6月	個人
▼動物たちのいのち 警戒区域内の家畜たち					
30	かじられた牛舎の柱	レプリカ	小高区大富	平成23年	福島県立博物館
31	牛舎の柱	写真	小高区大富	令和2年12月18日	当館

## 3. 「だんだんとけあっては来たげんちょも 今もくらしはてえへんだげんちょも」ー震災後の生活ー

No.	資料名・写真タイトル	分類	場 所	年月日	所蔵者・写真提供者
▼ありがとうからはじめよう 与えられる人から与える人へ					
31	「ありがとうからはじめよう」のぼり	実物	原町区	平成23年4月製作	須藤栄治氏
32	「ふるさと再生」のぼり	実物	原町区	平成23年4月製作	須藤栄治氏
33	「ふるさとを支えてくれてありがとう」ポスター	実物	原町区	平成23年4月製作	須藤栄治氏
34	自衛隊のみなさんへありがとう	写真	鹿島区南柚木・サテライトかしま	平成23年6月18日撮影	田中章広氏
35	ボランティアのみなさんへありがとう	写真	原町区小川町 原町区福祉会館	平成23年9月24日撮影	須藤栄治氏
▼当時の子どもたちが思っていたことー震災から1年後・「想いのツリー」からー					
36	南相馬ダイアログ会場に設置された「想いのツリー」	写真	原町区本町 南相馬市民文化会館	平成24年2月18・19日撮影	相双ビューロー
37	想いのツリー「どんな未来にしたいですか」	写真	原町区本町 南相馬市民文化会館	平成24年2月18・19日撮影	相双ビューロー
38	はやくそとであそびたい	写真	原町区本町 南相馬市民文化会館	平成24年2月18・19日撮影	相双ビューロー
▼震災下の子どもたちー子どもたちの居場所作りー					
39	原町区・常福寺の「なんだべ寺子屋」	写真	原町区本町 常福寺	平成23年年4月21日撮影	田中章広氏
40	安心できる遊び場「みんな共和国」	写真	鹿島区寺内 万葉ふれあいセンター	平成24年3月25日～4月8日撮影	相双ビューロー
41	次は屋外の遊び場を！「みんな共和国」	写真	原町区高見町 高見公園	平成24年8月1日～26日撮影	相双ビューロー
42	新生・高見公園オープン	写真	原町区高見町 高見公園	平成24年10月21日撮影	相双ビューロー

## 4. 「ちゃんと伝えねっかなんね」ー失ったもの・うまれたもの・伝えていきたいことー

No.	資料名・写真タイトル	分類	場 所	年月日	所蔵者・写真提供者
▼津波の跡に植物が広がった					
43	ミズアオイ	レプリカ			当館
44	ツツイトモ	レプリカ			当館
45	ミズアオイ	標本	鹿島区北海老		当館
46	ツツイトモ	標本	小高区村上		当館

Ⅳ 令和２年度事業実施概要

No.	資料名・写真タイトル	分類	場 所	年月日	所蔵者・写真提供者
▼郷土の恵み					
47	ベンケイ	レプリカ	原町区萱浜		当館
48	ガニマキ	レプリカ	原町区深野		当館
49	ガニマキ	レプリカ	鹿島区上栃窪		当館
50	栗ごはん	レプリカ			当館
51	たけのご飯	レプリカ			当館
52	ぜんまいの油炒め	レプリカ			当館
53	こごみの胡麻和え	レプリカ			当館
54	干し柿	レプリカ			当館
55	ユズの砂糖漬け	レプリカ			当館
56	アミコのおろし和え	レプリカ			当館
57	イノハナご飯	レプリカ			当館
58	イノハナ（コウタケ）	レプリカ			当館
59	アミコ（アミタケ）	レプリカ			当館
60	キノコ採り	写真		平成21年 9 月撮影	岩崎真幸氏
61	イグネ（屋敷林）	写真	小高区	平成18年11月撮影	岩崎真幸氏
▼村上の田植踊 伝承の危機と復活					
62	村上の田植踊衣装（万祝）	実物			
63	震災前の村上の田植踊	写真	小高区村上 貴布根神社	平成17年 4 月23日撮影	当館
▼復興事業に伴う発掘調査－協力によって守られた歴史・文化－					
64	鉄刀（9号横穴墓出土）	実物	原町区下太田 西口横穴墓群		市教育委員会
65	首飾り（18号横穴墓出土）	実物	原町区下太田 西口横穴墓群		市教育委員会
66	首飾り（19号横穴墓出土）	実物	原町区下太田 西口横穴墓群		市教育委員会
67	須恵器（17号横穴墓出土）	実物	原町区下太田 西口横穴墓群	8 世紀	市教育委員会
68	須恵器（13号横穴墓出土）	実物	原町区下太田 西口横穴墓群	8 世紀前半	市教育委員会
69	須恵器（17号横穴墓出土）	実物	原町区下太田 西口横穴墓群	8 世紀前半	市教育委員会
70	須恵器（17号横穴墓出土）	実物	原町区下太田 西口横穴墓群	8 世紀前半	市教育委員会
▼東日本大震災と臨時災害放送局 市民に寄り添い声を伝え続けた「南相馬ひばりエフエム」					
71	放送原稿とマイク、カフ	実物			当館
72	緊急地震速報用の放送原稿	実物			当館
73	環境放射線モニタリング結果 放送用原稿	実物			当館
74	リスナーからのお便り	実物			当館
75	案内板とリクエストボックス	実物			当館
76	特別番組などの音源	実物			当館
77	ひばりエフエム 番組表	実物		平成28年	当館
78	ひばりエフエム チラシ	実物		平成24～30年	当館
▼常磐線の全線運転再開					
79	臨時バス 新地・相馬－福島線 時刻表	実物		平成23年 3 月27日発行	当館
80	J R 代行バス 原ノ町駅－亘 理駅 時刻表	実物		平成23年 5 月23日発行	当館
81	原ノ町駅にたたずむ特急スー パーひたち	写真		平成28年 3 月14日撮影	当館



No.	資料名・写真タイトル	分類	場 所	年月日	所蔵者・写真提供者
82	撤去作業中の特急スーパーひたち	写真		平成28年3月19日撮影	大槻明生氏
83	常磐線運転再開～特急ひたちの運転開始～	写真		令和2年3月14日撮影	当館
84	常磐線全線運転再開ポスター「つながる。」	実物		令和2年	当館
▼あれから10年たって					
85	みんなが笑顔になれる場所	写真	原町区萱浜 なの花めいろ	平成28年4月16日撮影	相双ビューロー
86	未来の原風景	写真	鹿島区南海老・北右田・南右田 万葉の里風力発電所	令和3年2月10日撮影	当館
87	地域の記憶を伝える場に	写真	鹿島区南右田 かしまの一本松跡地	令和3年2月10日撮影	当館
88	新たな魅力で郷土料理を伝え継ぐ	写真	富岡町 スマート農業・先端技術体感フェア in とみおか	令和2年11月16日撮影	荒川美記子氏
89	少しでも手がかりを	写真	鹿島区南右田 右田海岸	令和3年2月10日撮影	当館
90	もどってきた大地の恵み	写真	原町区金沢	令和2年9月30日撮影	市秘書課
91	マイクロシーベルト(モニタリングポスト)	写真	原町区錦町 南相馬合同庁舎	令和3年2月11日撮影	当館
92	「伝えねっかなんね」	写真	鹿島区南柚木 八坂神社「おらほの碑」	令和3年2月27日撮影	当館
93	高く、大きく、厚く、海と陸のあいだに	写真	小高区村上 堤防	令和2年5月7日撮影	当館
94	あの日のままの下駄箱	写真	小高区蛸沢 福浦小学校	令和3年2月16日撮影	当館
95	地域の人たちをつないだ「村上の田植踊」	写真	富岡町 「ふるさとの祭り2018 in 富岡」	平成30年11月11日撮影	当館
96	旧真野小学校のいま	写真	鹿島区小島田	令和3年2月10日撮影	当館
97	再び楽しい思い出を作れる場所に	写真	原町区北泉 北泉海水浴場	令和元年7月20日撮影	市秘書課
98	安心して遊べる場所	写真	原町区高見町 わんぱくキッズ広場	平成26年3月20日撮影	市秘書課
99	テクノロジーの躍進を静かに見守る	写真	原町区萱浜 福島ロボットテストフィールド	令和2年11月18日撮影	当館
100	2011年3月11日の日めくりカレンダー	実物	小高区	平成23年3月11日	当館（小高区個人寄贈）
101	震災の余震で止まった時計	実物	原町区	令和3年2月13日	当館（佐藤喜彦氏寄贈）

### （3）中止になった企画展（新型コロナウイルス感染症拡大の影響による）

- ①「南相馬の記念物90年」 令和2年5月8日～5月31日
- ②「馬に乗り・操り・愛でる」 令和2年7月1日～8月23日
- ③「相双地方のオリンピック」 令和2年8月25日～9月22日

## 2. その他の展示事業

### (1) ミニテーマコーナー

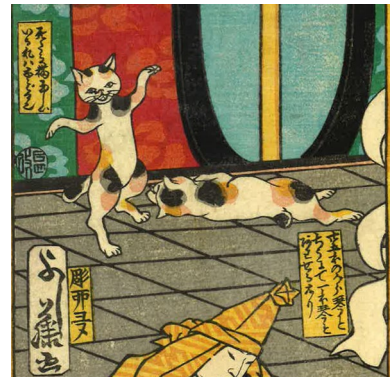
常設展示室の一部に小展示スペースを設け、学芸調査による研究成果の一部を展示した。

#### ①「猫好き必見！ねこの浮世絵だニャ～」

〔期 間〕 令和2年2月22日～6月7日

〔内 容〕 2月22日の「猫の日」にちなんで、猫が描かれた浮世絵を展示。江戸時代の人びとが猫に寄せた思いを浮世絵から読み取った

〔展示資料〕 猫が描かれた浮世絵9点／「新吉原あんじもの」「浅草御うまやかし 不しきのよ宇な紙細工」「東京自慢十二ヶ月 六月 新橋 入谷の朝顔 福助」「東京名所三十六戯撰 鉄砲洲」「俳仙十哲の内 越人」「白縫物語 二十七編下」「化け猫(仮題)」「源氏六條乃花」「当世 三筋のたのしみ」



浮世絵「浅草御うまやかし 不しきのよ宇な紙細工」の一部

#### ②「浦尻貝塚・泉官衙遺跡」

〔期 間〕 7月1日～10月2日

〔内 容〕 史跡整備事業が進んでいる国史跡浦尻貝塚と国史跡泉官衙遺跡の発掘調査で出土した遺物を展示し、文化財保護の啓蒙を図った。

〔展示資料〕 浦尻貝塚／貝層剥ぎ取り断面、土器、骨角器、石器、土偶、動物遺存体等  
泉官衙遺跡／柱根、瓦、木簡、炭化米

#### ③「古文書の整理と保存」

〔期 間〕 令和2年10月3日～令和3年1月8日

〔内 容〕 報徳仕法を指導した富田高慶家に伝わった古文書を中心に、博物館における古文書の整理・保存の工程などを紹介。

〔展示資料〕 富田家文書／志賀直道書簡ほか

#### ④「小正月行事」

〔期 間〕 令和3年1月9日～4月2日

〔内 容〕 1月1日を中心とする大正月に対する、1月15日を中心とする小正月を紹介。小正月の訪問者カセドリ、鹿島御子神社の火伏の神事と天燈籠の神事、墨塗りの浮世絵と江戸の旗本相馬家の墨塗り行事、イナボを紹介。

〔展示資料〕 カセドリ再現写真、火伏写真、天燈籠写真、天燈籠、提灯（鹿島御子神社神紋入り）、浮世絵「墨戦之図」、イナボ、神棚



ミニテーマコーナー 「小正月行事」の展示

## (2) エントランスホール展示

季節の話題・ニュース性があるテーマ、また常設展・企画展の導入としてエントランスホールを活用し、展示や情報提供を行った。

期 間	テーマ	展示資料
令和2年3月27日～ 4月17日	常磐線と磐城無線電信局 ふっこうステーションまちかど 写真館	無線塔模型、無線塔コンクリート破片・鉄骨、磐城無線電信局開局記念盆、写真パネル（常磐線運転再開、磐城無線電信局開局記念絵はがきなど）
4月1日～	メダカの生態展示	市内流域のメダカ
4月8日～ 6月30日	春の味はどんな味？	郷土料理レプリカ／ガニマキ、こごみの胡麻和え、わらびのお浸し、たけのこご飯、じゃがいもの味噌炒め
5月20日～ 7月23日	蓄音機と昭和歌謡の時代 作曲家古関裕而と佐々木俊一	明治末から昭和中期まで使用された蓄音機、S Pレコード、歌詞カード、原町高校校歌制作に係る福島市出身の作曲家古関裕而の手紙など。また、浪江町出身の作曲家佐々木俊一を紹介
7月1日～ 9月3日	南相馬味めぐり 夏の食べ物編	郷土料理レプリカ／カツオの焼き漬け、しそ巻きとせつぷく南蛮、ホッキご飯、ホッキカレー、アイナメのたたき、きゅうりの味噌汁、味噌おにぎり
7月24日～ 8月23日	野馬追の旗と武具	黒地に日の丸大纏、指旗・白地に黒上り猪、指旗・白地に黒龍の字、兜
8月8日～ 9月27日	令和の省略野馬追	令和2年度相馬野馬追の写真パネル、映像作品「2020相馬野馬追」
8月27日～ 9月27日	学芸員実習成果展～野馬追の武具	黒漆塗五枚胴具足、黒漆塗三十二間筋兜
9月4日～ 10月31日	『報徳仕法』と“いもずいも”	涼ヶ岡八幡神社「いもずいも」関連レプリカ／いもずいも（芋吸物）、おでん（味噌田楽）、赤飯
9月29日～ 12月10日	企画展「冥界へようこそ」導入	地獄絵（阿毘至大地獄のうち鉄車）
11月1日～ 令和3年1月23日	南相馬味めぐり ベンケイ編	郷土料理「ベンケイ」レプリカ
令和2年12月12日～ 12月15日	大甕幼稚園 クリスマスリース展～東ヶ丘公園で見つけた自然素材を添えて	大甕幼稚園「東ヶ丘公園で遠足」（10/28）で集めた松ぼっくりなどを素材に、園児が制作したクリスマスリース
12月12日～ 12月16日	南相馬の化石	ニルソニオクレイダス・ジャポニカス、ニルソニオクレイダス・タイラエ、密集した足跡（レプリカ）
令和3年1月5日～ 1月23日	正月 神楽と凧（中部地方）	神楽・凧の浮世絵・凧（東海・信越地方）
1月24日～ 2月19日	いろいろなモチ くらしの知恵 ごんだ餅	郷土料理レプリカ／柿餅、干し柿、凍み餅、柿のり
1月31日～ 2月27日	昔の道具	衣食住に関する昔の道具
2月16日～ 3月11日	「記念物100年」パネル展 （文化庁の記念物100年展参加事業）	解説、写真パネル
2月20日～ 5月5日	歴史をつなぐために 若い世代の新しい取り組み	ベンケイ（レプリカ）、ふくしまイノベントウ（外箱）
3月2日～	カヤネズミの生態展示	カヤネズミ（小高区産）
3月6日～ 5月5日	企画展「南相馬の震災10年」イントロダクション	岡部昌生「おらほの碑」、片桐功敦「牛舎の柱」、かしまの一本松
3月6日～	企画展「南相馬の震災10年」関連 市内の震災慰霊碑	市内の震災慰霊碑等分布図、震災慰霊碑等の写真パネル



(3) かしま交流センター展示

鹿島区に関連する展示を行った。

[期 間] 平成31年4月1日～令和3年3月31日

[展示資料] 一杯清水遺跡出土注口土器、解説パネル

(4) 野外展示

館外に本市に関連する資料の展示を行った。



C50型蒸気機関車

①蒸気機関車

[期 間]

平成11年8月26日から現在地に常設展示

[展示資料] 標準旅客用機関車

C50型103号機、テンダー

[資料内容] 昭和5年3月に製造。昭和20年11月から常磐線平機関区に配備され、昭和45年4月に廃車となったもの。

②原町無線塔頭部

[期 間]

平成9年8月20日から現在地に常設展示

[展示資料]

磐城無線電信局原町送信所主塔頭部

[資料内容] 大正10年7月に開局した対米無線局・磐城無線電信局原町送信所の主塔頭部。副柱へワイヤーを張って巨大アンテナを形成するための滑車が付属する。

高さ201mの鉄筋コンクリート塔は、開局当時“東洋一”と称され、大正12年の関東大震災の惨状をサンフランシスコに打電し各国からの援助を導いた。昭和57年解体され頭部のみ現存する。



磐城無線電信局原町送信所主塔頭部



パンタネリウム

③パンタネリウム

[期 間]

平成30年30月29日～令和3年3月31日

[展示資料] パンタネリウム

[資料内容] 平成29年度福島県事業「アートによる新生ふくしま交流事業」の一環として、アーティスト君平氏が制作した鉄製オブジェ。鹿島区の小山田層（中生代白亜紀初期）の地層から産出する微化石「パンタネリウム」を表現した作品。

## 3. 資料収集管理事業

## (1) 収蔵資料数 (令和3年3月31日現在)

区 分		実 物	標 本	模型等	合 計	令和2年度増減分 内訳			
						寄贈	寄託	購入	返却
人文科学資料	古美術	717( 2)			717( 2)				
	近代美術	25( 1)			25( 1)	2			
	考 古	7,706(2,477)			7,706(2,477)	0			
	民 俗	7,027( 253)		11	7,038( 253)	63		95	▲ 6
	歴 史	11,080(5,221)		53(7)	11,133(5,228)	280	5		▲57
	その他	548			548				
	図 書	11,598			11,598	224		0	
	写 真	1,330			1,330				
	計	40,031(7,954)		64(7)	40,095(7,961)	569	5	95	▲63
自然科学資料	動 物	639( 40)	678	13	1,330( 40)				
	植 物	69	54	2	125	1			
	地 学	11( 2)			11( 2)				
	理化学								
	天 文								
	その他	63		1	64				
	図 書	405			405	8			
	写 真	116			116				
	計	1,303( 42)	732	16	2,051( 42)	9			
合 計		41,334(7,996)	732	80(7)	42,146(8,003)	578	5	95	▲63

( )内は寄託件数

## (2) 資料の貸出し

## ①博物館資料

資料名／点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
化石(腕足類・三葉虫・アンモナイト・植物化石・クジラ・二枚貝)／40点	かしま元気スポーツクラブ	令和2年8月23日	「少年少女化石探検」開講式
ウサギ剥製、昆虫標本(クルマバッタモドキ等)、カエルのレプリカ／3点	大甕幼稚園	令和2年9月18日	幼稚園キャラバン(地域創生の核となる博物館実行委員会主催)にて使用
大堀相馬焼(筒描き山水文土瓶、青土瓶、金彩駒絵御神酒徳利、柿釉黒流掛油壺、色絵岩菊文土瓶、灰釉駒絵土瓶)／6点	福島県立博物館	令和2年10月29日～3年1月28日	令和2年度テーマ展「ふくしまの焼きもの1」
相馬野馬追関連資料(指旗×1、体験用陣羽織×4、三社神旗×3、金箔押紫糸威二枚胴具足×1、黒漆塗五枚胴具足×1、黒漆塗犀角形兜×1、総髪桃形兜×1、唐冠形兜×1、野馬追ポスター×10)／23点	南相馬市商工労政課ロボット産業推進室	令和2年12月6日	「ロボテスウォーク2020」における野馬追展示ブース
「鶏足神社の浜下り」DVD／1点	福島県立博物館	令和2年12月20日	ミニ上映会「記録映像で見るふくしまのくらし」

資料名／点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
厄流しの舟／1点	ハースト 婦人画報社	令和2年12月19日	月刊誌『婦人画報』3月号（2021/2/1発売）「東北特集」における、資料を使用した花道家・片桐功敦氏の献花。および取材撮影のため
野馬追備列絵巻（レプリカ）／5点	高杉記子	令和3年1月26日 ～2月28日	東日本大震災10年目に際した作品「MUSUHI（仮）」の制作に必要な、当該資料の高解像度の画像データ作成

## ②写真資料

16件・46点、ほか一括2件

## 4. 調査・研究事業

## (1) 調査研究テーマと内容

## [共同テーマ]

東日本大震災にかかる資料・情報収集（継続）

東日本大震災の展示等を念頭に、震災に係る資料・情報の収集。おもに市民への聞き取り調査、写真の収集等を行い、その成果の一部は企画展「南相馬の震災10年」において紹介した。

## [分野別テーマ]

## ①東日本大震災（災害）と野馬追（継続）

震災によって、大きな影響をこうむった野馬追関係者への聞き取り調査等を行った。また、コロナ禍で大幅に縮小して開催された行事の記録収集を行った（令和3年度企画展で紹介）。

## ②野馬追絵巻の調査（継続）

平成29年度に当館で購入した『野馬追備列絵巻』を中心に、近年発見された野馬追図屏風等について、詳しい内容の調査を行った。屏風は「相馬野馬追収蔵資料展」において新資料として紹介した。

## ③東日本大震災後の生物（小高の自然）調査（継続）

東日本大震災後の津波被災地のなかでも東京電力㈱福島第一原子力発電所から半径20キロメートル圏内の動植物について、環境省、国内の研究者、大学と連携し、情報交換を行いながら生物相（変化）の継続した調査を行った。

津波被災後に県内において初確認された数種の動植物の今後の動向や保全策について、地元や関係機関との調整を行った。また、原発事故後の生物の状況については、関係機関にサンプル提供を継続し、データの蓄積を図った。これらの結果や今後の課題については、当館の企画展示のみならず、学会や研究者のシンポジウム等にて発表し、各地の研究者と情報を共有するとともに議論を重ねながら、今後の復興工事や動植物の保全計画等に活かせるものとする。

## ④津波跡地の植物相調査と標本の収集（継続）

津波の跡地に生じた湿地や水路には新たな生態系の広がりが見られた。なかには絶滅危惧種であるツツイトモ（震災前には福島県で未報告）、リュウノヒゲモ（福島県絶滅危惧ⅠA類）などが確認されている。これらの生物の存在の証拠となる植物標本の収集・作製を継続して進めた。

## ⑤南相馬市内の木の木の放射能濃度調査（継続）

学校や家庭において教育目的で扱われることの多い植物種（ドングリなど）の放射能濃度および空間線量を市内各地で調査した。データの蓄積が進めば、放射能濃度検査を行わなく

とも、空間線量の計測だけで木の実など放射能濃度を推測することができ、子どもたちが外遊びなどをする際の助けとなることが期待される。

「市民科学」の方法を念頭に、市民と学芸員が協働して放射能濃度検査を進めることで、身近な生物や科学的な調査への市民の関心を喚起することも狙いである。

#### ⑥文化財レスキュー活動（継続）

東日本大震災以降、小高区を中心に被災家屋の主屋・蔵・納屋等の解体が続いた。それに伴い、多くの文献資料や民俗資料（民具）が大量に廃棄されていたため、被災文化財のレスキュー活動と資料整理を行った。

#### ⑦死生観・他界観に関する資料調査（新規）

日本人の死生観や他界観を表現した、阿弥陀来迎図・地獄極楽図・十王像・幽霊画などの資料および葬送儀礼を調査し、企画展「冥界へようこそ」—仏画・幽霊画などから見た死生観—に反映した。

#### ⑧「浜下り」の映像記録制作（祭礼の年に随時継続）

令和2年3月16日に「浜通りのお浜下り」が国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された。当館ではこれまで「日吉神社の浜下り」「男山八幡神社のお浜下り」「鶏足神社の浜下り」「南相馬の子供の祭り」（小沢と下江井の天神様のお浜下り）など、市内の浜下り行事の映像記録を制作し、館内および各地区で上映会を開催した。

今年度は、令和3年（丑年）3月末実施予定だった（コロナ対策のため令和4年3月末に延期）鹿島区海老の「虚蔵尊のお浜下り」、令和3年4月実施予定の鹿島区烏崎の「津神社のお浜下り」の映像記録化に向けた事前調査および過去の映像記録の収集を行った。

#### ⑨相双地方の焼き物調査（継続）

近世に開窯した大堀相馬焼は、中村藩の外貨獲得に貢献したほか、東北地方から関東地方まで広く流通し、特に東北地方の各窯に影響を与えたといわれている。同窯の製品や作品の調査を行い、その優れた作品、技術等を紹介する展示につなげるための調査を行った。

#### ⑩歴史資料の整理と調査（新規）

資料の所蔵者の世代交代が進んでいることもあり、多くの資料が博物館に寄贈・寄託されているが、未整理のままとなっているものが多い。当地方の代表的な古文書群である石神の富田家資料などの整理と調査を行い、これまで公開されていない資料を、資料整理の過程とともにミニテーマコーナーでその一部を展示した。また、その内容を広報誌のコラムに掲載した。

#### ⑪戦争体験者からの聞き取り調査（新規）

終戦から70年以上が経過し、戦争の体験者は急速に少なくなりつつあり、戦争の記憶は薄れつつある。体験者の記憶を記録するため、4人から聞き取り調査を行った。

## （2）各学芸員の研究活動

### ①寄稿

堀 耕平「地域資源の活用と博物館の役割」（令和3年3月 ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局『大堀からの10年』）

二上文彦「震災で出会ったアートの“伝える力”」（令和3年3月 ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館『記憶のための未来：東日本大震災後のアートと暮らし』）

### ②相双エリア情報発信誌『info(いんぷお)』コラム「sousou 今昔話」

（株）いんぷお（南相馬市鹿島区）が発行するフリーペーパー『info』における学芸員連載コラム。偶数月連載。

#### Ⅳ 令和2年度事業実施概要

発行部数／12,000部

配布地域／相双地域および宮城県仙南地域

掲載号数	テーマ	担当学芸員
令和2年4月号	半谷清寿・六郎と桜一浜通りの桜の名所を作った人ー	二本松
6月号	作って遊ぼう！野馬追の歴史を学べる相馬野馬追すごろく(特別拡大版)	樋口
6月号	ホッキ貝と相双の人びと	川崎
8月号	疫病除けのお呪いー新型コロナウイルス 村から出ていけ！ー	二本松
10月号	野馬追が秋の伝統行事に…？ー100年前に盛り上がった10月変更案ー	二上
12月号	装飾横穴の世界へ	荒
令和3年2月号	真冬ならではの野馬追ネターポスターでみる野馬追ー	二上

#### ③他団体による委嘱等

堀 耕平：福島県博物館連絡協議会監事、ライフミュージアムネットワーク委員、地域創生の核となる博物館実行委員会会長

二本松文雄：福島県民俗学会幹事

二上 文彦：相馬野馬追保存専門委員会委員

仲川 邦広：福島県農村環境アドバイザー、福島県野生動植物保護アドバイザー

### 5. 教育普及事業

#### (1) 講座・体験学習

学芸員および外部講師を招いた講座・体験学習等の実施。

##### ①講座 6回 参加人数 111人

年月日	内容(タイトル)	担当・講師名	参加人数
令和2年 7月19日	市史をよむ「野馬追のちょっとむかし」	二上文彦学芸員	24
8月23日	市史をよむ「戦国時代の相馬氏と行方郡」	岡田清一氏(東北福祉大学大学院嘱託教授)	22
11月3日	木の実講座	仲川邦広学芸員	5
11月15日	市史をよむ「彼方の世界をどうみてきたかー私たちの他界観・来世観」	岩崎真幸氏(みちのく民俗文化研究所代表)	16
令和3年 2月21日	市史をよむ「相馬地方の大地の成り立ち」	竹谷陽二郎氏(元福島県立博物館専門員)	23
2月28日	市史をよむ「南相馬市の原始と古代」	玉川一郎氏(福島県考古学会会長)	21

##### ②体験学習 10回 参加人数 119人

年月日	内容(タイトル)	担当・講師名	参加人数
令和2年 8月8日	葉っぱのノート作り	仲川邦広学芸員	9
8月9日	化石をさがそう①	平宗雄氏(南相馬市博物館収集展示委員) 八巻安夫氏(相馬中村層群研究会会長)	11
9月6日	勾玉を作ろう①	荒淑人学芸員	8
9月27日	東ヶ丘公園で秋の植物をさがそう	仲川邦広学芸員	10
10月11日	樹脂封入標本を作ろう	仲川邦広学芸員	8
11月8日	化石をさがそう②	平宗雄氏(南相馬市博物館収集展示委員) 八巻安夫氏(相馬中村層群研究会会長)	20
11月28日	いきものの消しゴムスタンプをつくろう！	ほいはんこ氏(消しゴムハンコ作家)	18



年月日	内容（タイトル）	担当・講師名	参加人数
令和2年 12月27日	正月飾り作り	高田求幸氏（南相馬市博物館資料調査協力員）	6
令和3年 3月6日	化石のレプリカをつくろう	八巻安夫氏（相馬中村層群研究会会長） 荒好氏（相馬中村層群研究会副会長）	15
3月7日	香りの宝石せっけんを作ろう！	小林香代子氏（ライブラ香りの学校・福島校）	16
3月14日	プラスチック標本でペンダントをつくろう	仲川邦広学芸員	14



令和2年8月9日体験学習「化石をさがそう①」



令和3年3月7日体験学習「香りの宝石せっけんを作ろう！」

## ③その他（講演会、バスツアー） 1回 参加人数 10人

年月日	内容（タイトル）	担当・講師名	参加人数
令和3年 3月7日	バスツアー「津波伝承地と震災慰霊碑を巡る」	二本松文雄学芸員	10

## ④新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、下記講座・体験学習等が中止

年月日	種 類	内容（タイトル）	担当・講師名
令和2年 4月18日	講演会	鷲内遺跡のクルミかごからわかった縄文人の植物利用	佐々木由香氏（明治大学黒耀石研究センター客室研究員）
4月29日	体験学習	東ヶ丘公園で春の植物をさがそう	仲川邦広学芸員
5月3日	体験学習	香りの宝石せっけんを作ろう！	小林香代子氏（ライブラ香りの学校・福島校）
5月9日	バスツアー	ブラハラマチ	二上文彦学芸員
5月24日	体験学習	蓄音機コンサート	二本松文雄学芸員
7月11日	講座	野馬追の旗について	二上裕嗣氏（相馬野馬追保存専門委員長）
7月5日	講座	映像で見る福島の民俗	岩崎真幸氏（みちのく民俗文化研究所代表）
8月22日	企画展プレイベント 講談	怪談 江島屋騒動	一龍齋貞山氏（講師）
9月12日	バスツアー	奥相三十三所観音巡り	二本松文雄学芸員
10月18日	企画展ギャラリートーク	冥界へようこそ	二本松文雄学芸員
11月3日	企画展ギャラリートーク	冥界へようこそ	二本松文雄学芸員
11月29日	企画展ギャラリートーク	冥界へようこそ	二本松文雄学芸員
令和3年 3月21日	体験学習	勾玉を作ろう②	二上文彦学芸員

(2) 各機関との連携

①学校との連携

ア. 小・中・高等学校との連携・協力

- ・小学校3年生社会科の単元「古い道具と昔の暮らし」への館蔵資料による展示と解説
- ・博物館を活用した「総合的な学習の時間」への協力
- ・出前講座や資料の貸出しによる学校教育活動への協力

イ. 学校関係入館状況 18件／小学校12件（うち市外小学校2件）、中学校5件（うち市外中学校1件）、高等学校1件

入館者数 670人／児童・生徒613人、教師・引率者57人

ウ. 学校への出前講座 19件／小学校13件、中学校5件、適応指導教室1件

参加人数 557人／児童・生徒508人、教師49人

エ. 職場体験（中学生） 2回 9人

- ・令和2年9月10～11日 原町第二中学校2年生 4人
- ・令和2年9月15日 原町第三中学校2年生 5人

②生涯学習関係機関等との連携

ア. 出前講座等

年月日	団体名等	内 容 *はオンライン開催	担当学芸員	参加人数
令和2年 5月26日	市教育委員会学校教育課	新採用教職員研修「知っておきたい南相馬の歴史」	二上・森・仲川	23
5月30日	市観光交流課	*遊んで学ぼう「福島県相馬野馬追すごろく」	二上	12
7月11日	NPO法人相馬救援隊	第1回相馬野馬追アカデミーキャンプ（オンライン）	二上	13
7月25～ 27日	NPO法人相馬救援隊	*相馬野馬追オンライン配信	二上	65
8月1日	原町生涯学習センター	子ども自然体験学習事業「水辺のいきもの観察会2020」	仲川・樋口	31
8月10日	下太田農地・水環境保全会	下太田地区内河川等に生息する水生植物、生物等の実態について	仲川・樋口	11
8月19日	駅前サロン	蓄音機コンサート	二本松	15
10月28日	鹿島文化財愛好会	市内史跡（観音札所）めぐり	二本松	12
11月24日	ひばりいきいきサロン	ふるさとの歴史をまなぶ	佐藤	16
11月26日	原町生涯学習センター	原町さわやか（高齢者）学級「報徳移動教室」	森	13
11月28日	としょかんのTOMOみなみそうま	ふるさと再発見シリーズ講演会「浜通りと相馬地方の昔話と伝説」	二本松	30
12月9日	高平生涯学習センター	高平報徳講座	森	21
12月16日	原町生涯学習センター	成人大学講座「ベンケイはどこから来たのか？－萱浜の郷土料理を学ぼう－」	川崎	61
12月19日	八戸市博物館	*市民講座「ベンケイの来た道－福島県南相馬市萱浜の郷土料理のルーツを紐解く－」	川崎	8
令和3年 1月21日	鹿島区地域包括支援センター	蓄音機コンサート	二本松	10
3月14日	ランニング任意団体「Team M4」	復興祈念駅伝コース上の歴史・文化財	二上	13
3月19日	ひがし生涯学習センター	報徳仕法のあらまし	森	12
3月23日	JTB仙台支店	相馬野馬追の歴史と文化	二上	14

## イ. 発表・シンポジウム等

年月日	団体名等	内 容 *はオンライン開催	担当学芸員	参加人数
令和2年 11月26日	進化経済学会観光学 研究部会	*学際としての“北陸学”の構築を目指して 「近世における北陸から相馬地域への移住」	森	19
令和3年 3月6日	福島県立博物館	フォーラム「震災遺産を考える 次の10年 へつなぐために」	二上	64
3月28日	ふっこうステーション 実行委員会	シンポジウム「野馬追原の近代化」	森・二上	12

## (3) 地域創生の核となる博物館実行委員会事業

令和2年度文化庁・文化芸術振興費補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用して、本館が核（事務局）となり、全国の博物館と連携し実行委員会を組織し、「若者・子どもたちとともに博物館が南相馬を元気にするプロジェクト」事業を開催（主担当：樋口学芸員）。

## ①事業ユニット構成

ア.「南相馬ミュージアムユース」の育成

イ. 市内の幼稚園、保育所を博物館が訪問する「キッズキャラバン」

ウ. 幼児・低学年児童を主な対象とした体験学習「ミューキッズフェア in みなみそうま」

\*ア・ウは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で次年度繰り越し

## ②実行委員会構成団体

南相馬市博物館（会長および事務局）、九州国立博物館、兵庫県立考古博物館、兵庫県立人と自然の博物館、仙台市縄文の森広場、アクアマリンふくしま、こどもひかりプロジェクト（副会長）

## ③開催事業

年月日	会 場	体験プログラム	参加人数
▼「キッズキャラバン」の開催			
令和2年 7月9日	大甕幼稚園	・この木の実が浮かぶな？ ・飛ぶタネのもけいをつくろう	80
9月18日	大甕幼稚園	・神社でお散歩 ・カエルジャンプを作ってみよう	76
9月21日	大甕幼稚園	・ため池でお散歩 ・トンボのやじろべえ作り	43
10月28日	東ヶ丘公園	・シャボン玉作り	62（大甕幼稚園児）
▼「南相馬ミュージアムユース」の育成			
10月28日	東ヶ丘公園	・シャボン玉作り	1
12月20日	南相馬市博物館	・ミュージアムキッズミニフェア	2
▼体験学習「ミューキッズフェア in みなみそうま」			
12月20日	南相馬市博物館	・木のスプーンに木の実をかざろう ・折り紙で折る馬と兜 ・野馬追のサムライになってみよう！	50

## (4) 博物館理解・活用促進のための無料開館

記念日	年月日	入館者数
福島県民の日	令和2年8月22日（土）	52
	8月23日（日）	61
敬老の日	令和2年9月21日（月/祝）	47
文化の日・東北文化の日	令和2年11月3日（日/祝）	143
成人の日	令和3年1月11日（月/祝）	23
合 計		326

#### IV 令和2年度事業実施概要

##### (5) 他館等との連携

###### ①福島県博物館連絡協議会（理事として加盟）

ア．総 会 令和2年7月15日 会場／福島県立美術館

イ．フォーラム 令和2年11月9日 会場／東日本大震災・原子力災害伝承館  
「博物館が地域で生きる力を育むために みんなでつくる・考える防災教育」  
当館学芸員2人参加

ウ．理事会 令和2年7月1日 会場／郡山市立美術館  
令和3年3月26日 会場／福島県立博物館

###### ②ライフミュージアムネットワーク実行委員会

令和2年度文化庁・文化芸術振興費補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用した事業へ、実行委員会（事務局：福島県立博物館）の一員として参加

###### ③他団体との共催事業

年月日	団体名	テーマ	参加人数
令和2年8月30日	特定非営利活動法人南相馬サイエンスラボ	羽根田カンポス彗星ってなんだろう？	15
12月13日	特定非営利活動法人南相馬サイエンスラボ	化石ってなんだろう？	15
令和3年3月28日	ふっこうステーション実行委員会	野馬追原の近代化	12

##### (6) 博物館実習

年月日	大学名	学部	学 科	学年	人数
令和2年8月25～30日	秋田公立美術大学	美術学部	美術学科ものづくりデザイン専攻	2	1
令和2年11月10～15日	石巻専修大学	理工学部	生物科学科海洋生物コース	4	1

##### (7) レファレンス対応

247件（258人）＊7．情報発信（5）記載分も含む

## 6. その他の事業

##### (1) 文化財資料収蔵施設整備事業

本市の歴史、民俗、自然科学等の特徴を示す資料や美術工芸品および震災資料を適切に保存するための収蔵施設を整備するものであるが、令和2年度は、当館資料収集展示委員会の意見等を踏まえ、資料収集基本方針の検討を行った。

スケジュール／令和3年度 資料収集基本方針の策定、施設整備方針の決定

4年度 施設整備工事（改修）設計

5・6年度 施設整備工事（改修）

##### (2) 収蔵品等展示交流事業

台湾南投県竹山鎮との文化交流推進のため、博物館資料の展示交流を行うものであるが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により直接渡航ができなかったため、杉並区役所を通じての情報交換にとどまった。

スケジュール／令和3年度 打合せ、現地展示施設下見など事業構築作業

4年度 台湾南投県竹山鎮で展示（予定）

## 7. 情報発信

## (1) 広 報

## ①「南相馬ミュージアム通信」

8月上旬・令和3年1月中旬発行 各回27,000部

市内全戸配布、避難世帯への発送

## ②展示会ポスター・リーフレット

配布先：県内博物館、県内教育委員会、相馬地方各学校、公共施設、市内スーパー、市内旅館・ホテル、首都圏旅行業者 など

種 類	仕様・印刷数等
ポスター	「冥界へようこそー仏画・幽霊画などからみた死生観ー」B2・300部、企画展「南相馬震災10年」B2・320部
リーフレット	「冥界へようこそー仏画・幽霊画などからみた死生観ー」A4・2,700部、企画展「南相馬の震災10年」A4・2700部

## (2) 南相馬市博物館ウェブサイト・SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による発信

南相馬市公式ウェブサイト内の博物館サイトにて、展示や体験学習・講座などの催し物、来館案内などの各種情報、出版物の案内、学芸員による連載コラム（「ちょこっと☆みゅーじあむ」：毎月1日配信）などを発信している。

また、北海道博物館が運営する「おうちミュージアム」に参加し、自宅等で本市の歴史、文化、自然を楽しく知って学べる取り組みとして「おうちで博物館」の配信を開始した。令和3年3月末現在15件。

さらに、新たな取り組みとして、令和2年5月から博物館公式SNS（Facebook、Twitter、YouTube）の運用を開始し、相馬地方の歴史や自然、文化について紹介するとともに、当館の最新情報や展示・イベントのようすを発信している。市民はもとより、市外の感心層への効果的な発信の場として活用を図る。

当館サイト URL <https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/museum/index.html>

Facebook URL <https://www.facebook.com/minamisomashihaku>

Twitter URL <https://twitter.com/MinamisomaMuse>

YouTube URL <https://www.youtube.com/channel/UC3-Z-0fKZnOVMwZorWRrJRg>

## ①ちょこっと☆みゅーじあむ

掲載年月日	テーマ	担当学芸員
令和2年4月1日	半谷清寿・六郎と桜ー浜通りの桜の名所を作った人ー	二本松
5月1日	今も昔もアンコウがお好き	川崎
6月1日	苦難の時代の野馬追（1）天保の飢饉と明治維新	二上
7月1日	苦難の時代の野馬追（2）戦中・戦後	二上
8月1日	さがしてみよう～意外と身近な「マタタビ」～	仲川
9月1日	疫病除けのお呪いー新型コロナウイルス 村から出ていけ！ー	二本松
10月1日	桜井古墳公園のあるき方	荒
11月1日	むかしの道具変幻自在な風呂敷	樋口
12月1日	古文書ってなんだろう？	森
令和3年1月1日	丑年と牛	二本松
2月1日	小正月行事	二本松
3月1日	柿餅づくり体験記	川崎



#### Ⅳ 令和2年度事業実施概要

##### ②おうちで博物館

配信年月日	テーマ	担当学芸員
令和2年5月8日	鷲内遺跡3000年前のクルミかご	川田（文化財係）
	福島県相馬野馬追すごろく	二上・樋口
5月16日	「ノマくんと郷くん」ぬりえ	樋口
	おうちで郷土料理～ベンケイ編～	川崎
5月20日	「南相馬市のアンモナイト」ぬりえ	仲川
	アンモナイトの消しゴムスタンプをつくろう！	仲川
5月23日	おうちで郷土料理～カツオの焼き漬け編～	川崎
	おうちで郷土料理～じゃがいもの味噌炒め編～	川崎
6月3日	バーチャル背景（7種類）	樋口
6月14日	バーチャル南相馬市博物館（9か所）	樋口
6月30日	新型コロナウイルス感染対策ステッカー（6種類）	樋口
7月21日	おうちで郷土料理～ホッキご飯編～	川崎
7月27日	おうちで郷土料理～ホッキカレー編～	川崎
8月20日	江戸時代の野馬追すごろく	二上・樋口
9月5日	おうちで郷土料理～しそ巻編～	川崎

##### ③YouTube

配信年月日	テーマ	担当学芸員
令和2年6月12日	南相馬市・夜の生き物たち～センサーカメラで撮ってみた～	仲川
	砂浜のアリジゴク（クロコウスバカゲロウ）	仲川
6月23日	巨大放散虫を鉄板で作る making Iron Radiolaria “Pantanellium”	仲川
9月25日	★簡単★ビリ辛★しそ巻の作り方【南相馬市博物館】	川崎・樋口
12月1日	★福島県郷土料理★ベンケイの作り方【南相馬市博物館】	川崎・樋口

##### （３）『広報みなみそうま』コラム「おしえて博物館」

南相馬市広報紙『広報みなみそうま』における学芸員連載コラム。毎月掲載。

号数	テーマ	担当学芸員
令和2年4月号	3000年前のクルミかご	川田（文化財係）
5月号	野馬追の里らしい端午の節句	二上
6月号	*コロナ禍により連載休止	
7月号	*コロナ禍により連載休止	
8月号	戦争と教育～国民学校児童の手紙～	森
9月号	秋の海で自然と文化に触れる～ビーチコーミング～	樋口
10月号	幽霊画を楽しむ	二本松
11月号	「ベンケイ」を知っていますか？	川崎
12月号	古文書を見つけたら～整理と保存～	森
令和3年1月号	疫病除けの牛頭天王	二本松
2月号	動物撮影の助っ人「センサーカメラ」	仲川
3月号	装飾横穴の世界へ	荒

## (4) 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる記事・放映

掲載年月日等	メディア種別	【番組名】	記事表題・概要	担当学芸員
令和2年 5月10日付	福島民報		「野馬追すごろく」話題に 南相馬市博物館、HPで公開	樋口
5月16日付	福島民友新聞		編集日記（野馬追すごろくについて）	樋口
5月16日付	毎日新聞		「おうちで出陣」すごろくを作製 南相馬市博物館	樋口
5月17日付	福島民友新聞		野馬追すごろく公開 南相馬博物館HP「自宅で楽しんで」	樋口
5月21日	NHK福島放送局		[はまなかあいづTODAY] 相馬野馬追の戦時中の報告書発見	二上
5月27日付	福島民友新聞		戦時中～終戦後の相馬野馬追 空襲警報後も騎馬行列「空白の5年間」資料発見	二上
5月28日付	福島民報		相馬野馬追すごろく 30日に完成イベント オンラインで参加 好きな「郷」からスタート	樋口
5月30日放映	NHK福島放送局		オンラインイベントで野馬追すごろく	樋口
5月31日付	福島民友新聞		みんゆうジュニア情報局 いざ野馬追すごろく	樋口
6月号	いんふお		野馬追すごろくの紹介	樋口
6月1日付	福島民報		野馬追行事の行事の資料発見 太平洋戦争中と終戦後 言い伝え裏付け 南相馬市博物館	二上
6月2日付	北海道新聞		千年の祭り	二上
6月2日付	福島民報		野馬追すごろく楽しむ 完成記念オンラインイベント	樋口
6月3日付	朝日新聞		野馬追すごろく、いざ出陣 南相馬市博物館	樋口
6月4日付	福島民友新聞		野馬追すごろくオンライン企画 南相馬	樋口・二上
6月6日放送	ラジオ福島		[あしたへ] コロナ下における南相馬市博物館の取り組みについて	樋口
6月28日付	読売新聞		省略野馬追とすごろくの紹介	樋口
6月30日付	読売新聞		野馬追 戦時も開催 空襲警報下に武者行列 新資料発見	二上
7月4日付	福島民報		南相馬で発見の野馬追資料 市博物館で初公開 太平洋戦争中、戦後の行事詳細に	二上
7月6日付	福島民友新聞		座標軸（省略野馬追の紹介）	二上
7月6日配信	相双ビューロー		相馬野馬追収蔵資料展の紹介	二上
7月8日付	毎日新聞		相馬野馬追、苦難の時代 空襲警報の後、出陣／弓矢使い神旗争奪 新文書発見 戦中・戦後の様子判明／福島	二上
7月7日付	福島民報		江戸時代から現代の「相馬野馬追」紹介 図びょうぶや武具並ぶ	二上
7月17日放映	NHK総合		[ニュース シブ5時] 野馬追すごろくの紹介	樋口
8月19日付	福島民報		ジュラ紀の化石見つけた！ 南相馬市博物館で体験学習	二上
8月24日付	朝日新聞		野馬追 1000年超 今年が最小？	二上
8月31日付	毎日新聞		野馬追すごろく 第2弾、作製・公開 今度は江戸時代版 南相馬市博物館HP	樋口
9月12日放映	岩手朝日テレビ		あの日見た空に～追憶・後藤野飛行場～（特攻隊機の一部を放映）	森
10月2日付	福島民報		10年ぶりに幽霊画展 南相馬市博物館来月29日まで	二本松

#### Ⅳ 令和２年度事業実施概要

掲載年月日等	メディア種別	【番組名】	記事表題・概要	担当学芸員
令和２年 10月9日付	毎日新聞	南相馬で企画展	幽霊画や地獄絵も 死生観や他界観を紹介	二本松
11月6日付	朝日新聞	「冥界へようこそ」仏画や幽霊画紹介	南相馬 日本の死生観考える企画展	二本松
11月12日付	福島民報	児童ら化石探し楽しむ	南相馬 鹿島の栃窪層で体験会	二上
11月22日付	福島民報	伝える見つめ直す相双の食⑥	ベンケイ（南相馬市）郷土料理 近年再び光	川崎
11月25日放映	テレビユー福島	[ふくしまSHOW] 原町無線塔の歴史、	『相馬野馬追図屏風』の紹介	二上
11月26日放映	NHK福島放送局	[はまなかあいづTODAY] 2カ月限定！	伝統守る南相馬の食堂（新田川の鮭漁）	二本松
12月1日付	福島民報	地元の良さ再発見	南相馬、昔話や伝説を傾聴	二本松
12月23日放映	NHK総合	[あさイチ] あの日の思い出レシピ／イノハナご飯	（イノハナとイノハナご飯の写真提供）	川崎
12月25日～放映	南相馬チャンネル	みんなで遊ぼう！	野馬追すごろく	樋口
令和３年 1月1日付	毎日新聞	響け！ 東北祭りばやし 完全復活今年こそ	相馬野馬追 苦しい時期だから神馬に願い 南相馬市博物館・二上文彦さん	二上
1月28日付	読売新聞	いまここから 1月 生の言葉 歴史になる 10年	で初の震災展 南相馬市	二上
2月19日付	福島民報	10年の歩み振り返ろう 当時の記憶鮮明に	来月6日から南相馬市博物館震災展	二上
3月6日付	福島民報	南相馬市博物館で企画展 震災関連資料 60点展示	報道機関向けに内覧会	二上
3月6日付	福島民友新聞	震災遺産や証言を振り返る	南相馬市博物館企画展 3月6日開幕	二上
3月11日配信	相双ビューロー	特別展示「南相馬の震災10年」	南相馬市博物館	二上
3月17日付	朝日新聞	向き合い伝える「災害」、東北各地で展覧会		二上
3月30日付	福島民報	化石のレプリカ作る	南相馬市博物館 住民ら体験学習	二上
6月放映	NHK仙台放送局（NHK Eテレ）	[山伏、現代を駆ける～祈りの山・出羽三山～]	江戸時代から現代の震災後も続く羽黒山伏と相馬地方の人びとの信仰と交流を紹介。	二本松

#### （５）広告の掲載依頼・情報提供

- ①南相馬市：広報みなみそうま、南相馬市公式ウェブサイト、南相馬市役所記者クラブ
- ②福島民報社：情報ナビ「たいむ」
- ③福島県文化センター普及課：『ふくしま文化情報』
- ④日本博物館協会：『博物館研究』
- ⑤ふくしま相双エリア情報発信誌『info』
- ⑥イベントバンクプレス ほか

#### （６）出版物

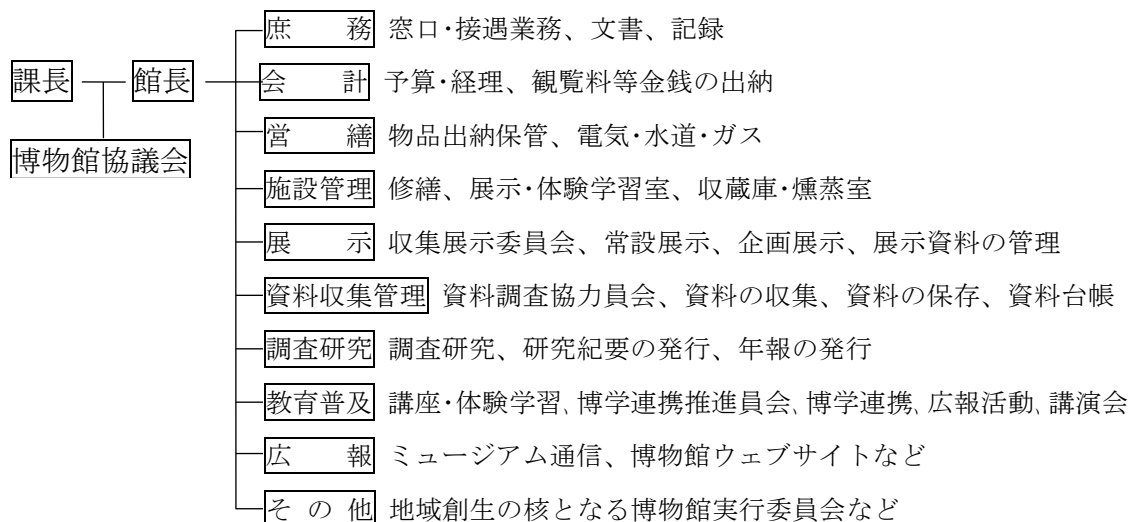
- ①年報（令和元年度実施状況）の刊行
- ②展示会関連
  - ・企画展「冥界へようこそ」パンフレット A3 二つ折り 2,000 部



## V 管理運営

## 1. 組織・職員

## (1) 博物館組織



## (2) 職員体制

職 名	氏 名	担当分野等	備 考
文化財課長	鈴木 悦子		
博物館長	堀 耕平	考 古	再任用
主 査	二本松文雄	民 俗	再任用
主 査	二上 文彦	野馬追	
主 査	荒 淑人	考 古	
主任文化財主事	佐藤 友之	民 俗	再任用
主任文化財主事	森 晃洋	歴 史	
文化財主事	仲川 邦広	自 然	
学芸員（会計年度任用職員）	樋口 晴菜	教育普及	
学芸員補助員（会計年度任用職員）	川崎 悠	民俗（郷土料理）	
事務補助（会計年度任用職員）	高野 一美		
事務補助（会計年度任用職員）	相良 春花		
事務補助（会計年度任用職員）	大勝 美香		令和2年7月1日～

## 2. 各委員会等

## (1) 博物館協議会

委員名簿（令和2年4月1日～4年3月31日）

役職名	氏 名	所 属
委 員	渡部紀佐夫	南相馬市生涯学習推進委員会
委 員	鎌田 文代	南相馬市私立幼稚園協会（さゆり幼稚園園長）
委 員	高田 昌幸	小学校長会（南相馬市立太田小学校長）
委 員	高橋 知宏	中学校長会（南相馬市立鹿島中学校長）
委 員	山崎 雅弘	高等学校長会（福島県立原町高等学校長）

## V 管理運営

役職名	氏 名	所 属
委 員	米澤 政美	南相馬観光協会
委 員	岡田 清一	学識経験者（歴史）
委 員	岩崎 真幸	学識経験者（民俗）
委 員	藤原 妃敏	学識経験者（考古）
委 員	竹谷陽二郎	学識経験者（自然）

### [会 議]

- ・第1回 令和2年8月7日 書面会議  
協議事項／南相馬市立博物館協議会の会長及び副会長の選任について  
令和元年度南相馬市立博物館事業の実施状況について
- ・第2回 令和3年3月26日 書面会議  
諮 問／令和3年度南相馬市立博物館事業計画について

## (2) 収集展示委員会

委員名簿（令和2年4月1日～4年3月31日）

役 職	部 会	氏 名	職名等
部会長	自 然	末永 福男	あぶくま生物同好会会員
委 員		岡田 光生	アグリ・ウォッチャー・クラブ代表
委 員		平 宗雄	日本洞窟学会会員
委 員		吉田 豊	学識経験者
委 員		湯沢 義秀	学識経験者
副委員長・部会長	考 古	玉川 一郎	福島県考古学会会長
委 員		小野田義和	福島県立原町高等学校教諭
委 員		佐藤 悦夫	広野町立広野中学校教諭
委 員		門馬眞一郎	学識経験者
委員長・部会長	歴 史	二上 裕嗣	南相馬市文化財保護審議会会長
委 員		藤原 一良	南相馬市文化財保護審議会委員
委 員		猪狩 正志	南相馬市文化財保護審議会委員
委 員		山本富士夫	南相馬市文化財保護審議会委員
部会長	民 俗	岩崎 真幸	みちのく民俗文化研究所代表
委 員		佐藤 一男	学識経験者
委 員		小林 初夫	福島市立岡山小学校教諭
委 員		丹野香須美	いわき市文化財保護審議会委員

### [会 議]

- ・令和2年9月5日 民俗部会  
協議事項／企画展「冥界へようこそ」について  
民俗資料収蔵方針について
- ・令和2年10月25日 民俗部会  
協議事項／民具収蔵方針について（民具仮置状況視察）
- ・令和2年10月31日 考古部会  
協議事項／令和3年度事業計画（案）について  
南相馬市博物館の資料収集に関する基本方針（案）について

- 令和2年11月1日 自然部会  
協議事項／令和3年度事業計画（案）について  
南相馬市博物館のコレクション収集に関する基本方針について
- 令和2年11月4日 歴史部会  
協議事項／令和3年度事業計画（案）について  
南相馬市博物館のコレクション収集に関する基本方針について

### （3）資料調査協力員

協力員名簿（令和2年4月1日～4年3月31日）

役 職	地 区	氏 名	役 職	地 区	氏 名
会 長	原 町	相良 征一	委 員	小 高	梅田 秀夫
副会長	小 高	鈴木 敬徳	委 員	原 町	柚原 恒貞
副会長	鹿 島	八巻 安夫	委 員	原 町	門馬 和雄
委 員	原 町	八巻 仁	委 員	鹿 島	小林 吉久
委 員	原 町	高田 求幸	委 員	鹿 島	石橋 三男
委 員	原 町	上原 義直			

[会 議]

- 実績なし

## 3. 予 算

### 令和2年度の予算執行状況

[歳 入]

科 目	当初予算額（円）	決算額（円）
博物館観覧料・使用料	1,585,000	834,050
書籍頒布代	270,000	138,300
自動販売機設置電気料	16,000	16,992
東ヶ丘公園電気料	31,000	24,404
合 計	1,902,000	1,013,746

[歳 出]

事業名	当初予算額（円）	決算額（円）
博物館協議会委員費	225,000	71,500
美術品等購入選定委員会委員費	0	0
博物館管理運営事業	31,966,000	36,585,923
収蔵品等展示交流事業	342,000	0
博物館企画展示事業	2,774,000	993,985
博物館学芸調査事業	2,221,000	1,167,513
博物館体験学習・講座事業	292,000	244,069
合 計	37,820,000	39,062,990

## 4. 入館者統計等

## (1) 令和2年度博物館入館者数・利用者数

入館者数				その他 利用者数	合 計	開館日数
一般	高校生	小・中学生	小計			
3,350	57	885	4,292	1,836	6,128	259

その他利用者数内訳

利用事由	件 数	利用者数
講座・体験学習・バスツアー	17	140
出前講座	37 (学校関係19、一般18)	977 (学校関係557、一般420)
職場体験受け入れ	2	9
博物館実習受け入れ	2	2
取材・レファレンス	247	258
発表・シンポジウム	3	95
地域創生の核となる博物館実行委員会事業	5	313
他団体との連携等	3	42
合 計		1,836

## (2) 令和2年度博物館入館者数月別集計表

年 月	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	合 計		
令和2年4月 *1	52	0	3	55	15	4
5月 *2	58	0	3	61	12	5
6月 *3	20	1	1	22	6	4
7月	321	11	50	382	26	15
8月	337	10	47	394	26	15
9月	204	3	309	516	26	20
10月	554	7	28	589	27	22
11月	755	11	57	823	25	33
12月	172	1	33	206	24	9
令和3年1月	95	1	12	108	24	5
2月	211	0	206	417	24	17
3月 *4	571	12	136	719	24	30
合 計	3,350	57	885	4,292	259	17

\*1・2 4月18日～5月18日／新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のため臨時休館

\*3 6月8～30日／空調設備工事のため臨時休館

\*4 3月20・21日／新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館

## (3) 平成7年度～令和元年度博物館入館者数

年 度	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	合 計		
平成7年度				19,604	186	105
8年度	12,648	147	2,025	14,820	304	49
9年度	10,690	183	1,965	12,838	302	43

## 4. 入館者統計等

年 度	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	合 計		
10年度	9,768	372	1,756	11,896	307	39
11年度	9,744	82	1,593	11,419	309	37
12年度	8,589	115	2,437	11,141	313	36
13年度	10,253	85	2,539	12,877	315	41
14年度	8,536	111	2,184	10,831	312	35
15年度	10,487	237	3,388	14,112	307	46
16年度	10,008	174	2,892	13,074	303	43
17年度	13,279	201	3,480	16,960	304	56
18年度	10,422	198	3,538	14,158	308	46
20年度	10,153	64	3,129	13,346	309	43
21年度	8,458	108	3,058	11,624	301	39
22年度	8,387	143	3,251	11,781	288	41
23年度	1,889	6	414	2,309	195	12
24年度	5,106	29	1,842	6,977	308	23
25年度	5,793	47	1,480	7,320	306	24
26年度	7,044	89	1,541	8,674	308	28
27年度	9,205	119	1,324	10,648	308	35
28年度	6,996	106	1,182	8,284	307	27
29年度	6,522	82	1,340	7,944	306	26
30年度	6,306	96	1,138	7,540	301	25
令和元年度	5,417	59	1,326	6,802	309	22

## Ⅵ 資 料 条例、規則、設置要綱、規約

### 1. 南相馬市立博物館条例

平成18年1月1日

条例第203号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、歴史、民俗、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して市民の学習、学術及び文化の発展に資するため、南相馬市立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 南相馬市博物館

位置 南相馬市原町区牛来字出口194番地

(事業)

第3条 博物館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、民俗、考古、自然科学等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム等の資料(以下「博物館の資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館の資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 博物館の資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (4) 博物館の資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)の観覧料は、別表のとおりとする。

2 市長は、期間を定めて特別の展示その他特別の催しを行う場合には、前項の規定にかかわらず、1,000円を越えない範囲内で別に観覧料を定めることができる。

3 展示品を観覧しようとする者は、観覧料を入館の際に納入しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 市長は、公益上必要があると認めるときは、前条の観覧料を減額し、又は免除することができる。

(利用の制限)

第6条 南相馬市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、博物館の利用を拒むことができる。

- (1) 適当な指導者又は付添人のない6歳未満の者
- (2) 泥酔者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人の迷惑となるおそれのある物品を携帯し、又は動物を伴う者
- (4) 係員の指示に従わない者
- (5) 前各号に掲げる者のほか、博物館の管理上支障を及ぼすおそれがあると認めた者

(協議会)

第7条 博物館法第20条第1項の規定に基づき、南相馬市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(委員会)

第8条 博物館の収蔵及び展示資料購入の選定に関して調査審議を行わせるため、市長の附属機関として南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会(以下「委員会」という。)を置くことができる。

2 委員会は、前項の調査審議を行うほか、収蔵及び展示資料購入に関して市長又はその委任を受けた者に対して指導助言を行うことができる。

3 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。

4 前条第3項及び第4項の規定は、委員会について準用する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館条例(平成12年小高町条例第21号)、鹿島町歴史民俗資料館条例(昭和56年鹿島町条例第11号)又は原町市博物館条例(平成6年原町市条例第34号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則(平成18年条例第243号)

この条例は、公布の日から施行し、改正後の南相馬市附属機関設置条例等の一部を改正する条例の規定は、平成18年1月1日から適用する。

附 則(平成18年条例第285号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月28日条例第12号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成24年12月20日条例第40号)

この条例は、公布の日から施行する。

別表(第4条関係)

南相馬市博物館観覧料

区 分	観覧料の額(1人につき)	
	個 人	団 体
一般	300円	250円
高校生	200円	150円
中学生及び小学生	100円	80円

備考

- 1 「団体」とは、20人以上の団体をいう。
- 2 引率者については、20人に1人の割合で無料とする。

## 2. 南相馬市立博物館規則

平成18年1月1日  
教育委員会規則第39号

(趣旨)

第1条 この規則は、南相馬市立博物館条例(平成18年南相馬市条例第203号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 南相馬市立博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(休日に当たるときは、その直後の平日(日曜日及び祝日以外の日をいう。))
  - (2) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日までの日
- 2 前項の規定にかかわらず、南相馬市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、特に必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は前項に規定する休館日に臨時に開館することができる。

(開館時間等)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時45分までとする。ただし、博物館に入館できる時間(以下「入館時間」という。)は、午前9時から午後4時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、同項に規定する開館時間又は入館時間を臨時に変更することができる。

(観覧券の交付)

第4条 博物館の館長(以下「館長」という。)は、条例第4条の規定による観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の減免及びその手続)

第5条 条例第5条の規定により、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額の観覧料を減額し、又は免除するものとする。

- (1) 市の区域内に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒並びに市内に住所を有する小学生、中学生

## Ⅵ 資 料 条例、規則、設置要綱、規約

及び高校生が観覧するとき 全額

(2) 市の区域外に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒が学校教育活動として観覧するとき 半額  
(引率者にあつては全額)

(3) 市が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 全額

(4) 他の地方公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 半額(引率者にあつては全額)

(5) 前4号に掲げる場合のほか、減免をすることが公益上適当であると認めるとき 全額

2 前項の規定により観覧料の減免を受けようとする者(前項第1号に規定する者を除く。)は、観覧しようとする日までに観覧料減免申請書(様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、休日その他特別の日に博物館を開放する場合は、この限りでない。

3 館長は、前項本文の規定により観覧料の減免を承認したときは、観覧料減免承認書(様式第3号)を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 博物館の施設、設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

(2) 館長の承認を得ないで、展示品の模写又は撮影をしないこと。

(3) 所定の場所以外において、喫煙又は飲食をしないこと。

(4) 前3号に掲げるもののほか、館長が指示する事項

(損害賠償)

第7条 博物館を利用する者が故意又は過失により博物館の施設、設備、展示品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の定めるところにより、その損害を賠償しなければならない。

(協議会)

第8条 南相馬市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を1人置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

第9条 協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければこれを開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 協議会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(資料の寄託)

第10条 博物館は、展示又は調査研究の目的で博物館に収蔵する資料(以下「資料」という。)の寄託を受けることができる。

2 博物館に資料を寄託しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄託申出書(様式第4号)により館長に申し出るものとする。

3 館長は、前項の規定により資料の寄託の申出があつた場合において、博物館の資料として当該寄託資料を保管し、又は一般の利用に供することが適当と認めるものについて受託することができる。

4 館長は、資料を受託したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受託書(様式第5号)を寄託者に交付する。

5 館長は、受託した資料を展示する場合において、寄託者の同意があるときは、当該寄託資料に寄託者の氏名等を表示することができる。

(寄託期間等)

第11条 館長は、受託した資料については、原則として2年間受託するものとし、博物館の資料の管理上支障があるとき、又は寄託に際して博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了したときは、受託した資料を寄託者に返還するものとする。

2 館長は、受託した資料について、博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了する日の1月前までに寄託者から別段の申出がないときは、その満了の日の翌日から起算して1年間寄託を継続する旨の申出があつたものとみなして、当該寄託期間を延長するものとする。その延長に係る寄託期間が満了した場合も、同様とする。

(寄託等に要する費用の負担)

第12条 資料の寄託及び返還に要する運搬費その他の費用は、寄託者の負担とする。ただし、館長が特に理由があると認めるときは、この限りでない。

(寄託資料の損害賠償)

第13条 博物館の責めに帰することができない理由により、受託した資料を亡失し、又はき損したときは、博物館は、その損害賠償の責めを負わない。



(資料の寄贈)

第14条 博物館に資料を寄贈しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄贈申出書(様式第6号)により館長に申し出るものとする。

2 館長は、前項の規定により資料の寄贈の申出があった場合において、博物館の資料として適当と認めるものについて受納することができる。

3 館長は、資料を受納したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受納書(様式第7号)を寄贈者に交付する。

(寄贈資料の取扱い)

第15条 館長は、寄贈された資料を展示する場合において、寄贈者から申出があるときは、当該寄贈資料に寄贈者の氏名等を表示することができる。

(寄贈に要する費用の負担)

第16条 第12条の規定は、寄贈に要する費用の負担について準用する。

(資料の館外貸出し)

第17条 博物館の資料は、貸出しすることができる。

2 資料の貸出しを受けることができる者は、国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣及び都道府県教育委員会が指定した博物館に相当する施設とする。

3 資料の館外貸出しを受けようとする者は、市立博物館館外貸出許可申請書(様式第8号)を提出し、館長から市立博物館館外貸出許可書(様式第9号)の交付を受けなければならない。

(事業計画の作成及び報告)

第18条 館長は、毎年翌年度において実施しようとする事業計画を協議会へ諮問し、年度末までに南相馬市教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を受けなければならない。

2 館長は、年度終了後1箇月以内に事業計画の実施状況を取りまとめ、協議会を経て教育長に報告しなければならない。

(博物館の警備及び防災)

第19条 館長は、年度始めに博物館に関する警備及び防災計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(その他)

第20条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館管理規則(平成12年小高町教育委員会規則第12号)、鹿島町歴史民俗資料館条例施行規則(昭和56年鹿島町教育委員会規則第1号)又は原町市博物館規則(平成7年原町市規則第1号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則(平成18年教委規則第51号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年教委規則第5号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日教委規則第2号)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成24年12月20日教委規則第7号)

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(様式に関する経過措置)

2 この規則の施行の際、この規則による改正前の南相馬市立博物館規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間これを使用することができる。

様式第1号(第4条関係)

様式第2号(第5条関係)

様式第3号(第5条関係)

様式第4号(第10条関係)

様式第5号(第10条関係)

様式第6号（第14条関係）  
様式第7号（第14条関係）  
様式第8号（第17条関係）  
様式第9号（第17条関係）

### 3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱

平成18年1月1日  
教育委員会告示第11号

（趣旨）

第1条 この告示は、南相馬市立博物館条例（平成18年度南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）第8条の規定に基づき、南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 委員会に委員長及び副委員長を1人置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

（任務）

第3条 委員の任務は、教育長の諮問に応じ、次のとおりとする。

（1）南相馬市立博物館の収蔵資料購入の選定

（2）南相馬市立博物館の展示資料購入の選定

（3）前2号に掲げるもののほか、収蔵及び展示資料購入に係る指導助言

（専門部会）

第4条 専門的な調査選定を行うため、委員会に専門部会を置き、必要に応じて審議する。

2 専門部会は、甲冑部会、刀剣部会、図書部会及び美術工芸部会とし、委員会の委員をもって構成する。

3 各専門部会の委員は、5人以内とする。

（会議）

第5条 委員会及び専門部会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、委員会及び専門部会の会議の審議結果を南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に答申する。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

（その他）

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この告示は、平成18年1月1日から施行する。

### 4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱

（設置）

第1条 南相馬市博物館（以下「博物館」という。）に収蔵する資料の収集並びに展示計画について専門的な指導助言を得るため、南相馬市博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織）

第2条 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。

2 委員会の委員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長副委員長は、委員の互選により選出する。

4 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときは、その職務を代理する。

（任務）

第3条 委員の任務は、教育長の求めに応じ、次のとおりとする。

一 博物館の収蔵資料の収集及び情報の提供。

二 収蔵資料の調査研究にかかる指導助言。

三 収蔵資料の展示計画及び展示にかかる指導助言。

(専門部会)

第4条 専門的な調査研究を行うため、委員会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、歴史部会、民俗部会、考古部会、自然部会とし委員会の委員をもって構成する。

3 専門部会に部会長を置き、部会に属する専門的事項を掌る。

(任期)

第5条 委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、専門部会は、部会長が随時招集することができる。

2 部会長は、専門部会の会議の内容を委員長に報告し、委員会の会議については、委員長が専門部会の内容も含めて教育長に報告する。

3 委員長が特に必要と認めた場合には、専門的分野に関する学識経験者を特別委員として委嘱するよう教育長に具申することができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

## 5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則

(目的)

第1条 南相馬市博物館収集展示委員会の円滑な運営を図るため、同設置要綱第8条の規定により、運営に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 専門部会は、5人以内の委員をもって構成する。

2 専門部会の部会長は、部員の互選により選出する。

(専門部会の任務)

第3条 専門部会の任務は、次のとおりとする。

- 一 部会に属する資料の調査、収集、保管、展示にかかる指導助言
- 二 常設展、企画展等の展示計画並びに展示方法・期間にかかる指導助言
- 三 部会相互の情報交換と連携・協力

(会議)

第4条 委員会の会議は、毎年4月と10月の2回招集し、委員長がその議長となる。

2 専門部会は、その部会に属する企画展の開催1年前までに招集し、部会長がとりまとめる。

3 企画展にかかる専門部会は、2回以上招集する。

4 専門部会の部会長は、企画展の計画案を委員会に提案し、承認を得る。

5 部会長は、企画展の実施状況をとりまとめ、委員会に報告する。

(庶務)

第5条 専門部会に関する庶務は、南相馬市博物館の担当学芸員が処理する。

付 則

この運営細則は、平成18年1月1日から施行する。

## 6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、南相馬市博物館に収蔵する資料の収集にあたり、資料の所在情報を得るため南相馬市博物館資料調査協力員会（以下「協力員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 協力員会は、30人以内の協力員を持って構成する。

2 協力員会の協力員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。

3 協力員会に会長及び副会長を置き、会長、副会長は、協力員の互選により選出する。

4 会長は、協力員会を代表し、会務を掌理する。

## VI 資 料 条例、規則、設置要綱、規約

5 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 協力員の任務は南相馬市博物館館長（以下「館長」という。）の求めに応じ次のとおりとする。

- 一 資料所在の情報提供
- 二 資料所有者の紹介
- 三 資料の収集協力

(任期)

第4条 協力員会の協力員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 協力員に欠員が生じた場合の補欠の協力員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 協力員会の会議は、会長が招集し、部会は部会長が随時招集することができる。

2 会長は、協力員会の会議の内容を、部会長は部会の会議の内容を館長に報告する。

(庶務)

第6条 協力員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協力員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

## 7. 南相馬市博物館博学連携推進員会設置要綱

(目的)

第1条 学校と博物館の緊密な連携・協力を推進し、博物館機能の充実と教育普及活動の活性化を図るため、南相馬市博物館博学連携推進員会（以下「推進員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 推進員会は、24人以内の推進員をもって構成する。

2 推進員会の推進員は、南相馬市博物館長が委嘱する。

3 推進員会に、会長、副会長を置き会長、副会長は、推進員の互選により選出する。

4 会長は、推進委員を代表し、会務を掌理する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 推進員の任務は、次のとおりとする。

- 一 博物館資料の収集、保管、展示、調査・研究活動への協力
- 二 学校における博物館の効果的な活用の推進
- 三 博物館学習指導の手引き等の作成と改善

(部会)

第4条 任務を効率的に遂行するために、推進員会に部会を置く。

2 部会は、小学校部会、中学校部会とし、推進員会の推進員をもって組織する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する専門的事項を掌る。

(任期)

第5条 推進員会の推進員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 推進員に欠員が生じた場合の補欠の推進員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 推進員会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 部会は、部会長が随時招集することができる。

(庶務)

第7条 推進員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、推進員会の運営に関し必要な事項は、館長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

## 南相馬市博物館 令和 2 年度 年報

令和 3 年12月 発行

編 集 南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194番地

TEL 0244 (23) 6421 FAX 0244 (24) 6933

<https://www.city.minamisoma.lg.jp>

E-mail:hakubutsukan@minamisoma.lg.jp